

令和元年度
上宮太子中学校・高等学校
学校評価関係

1. 規定
2. 各部署の年間計画及び重点目標
3. 各部署の中間報告
4. 各部署の総括
5. 授業アンケート分析
6. 保護者アンケート分析
7. 学校評価に関する報告書
8. 学校関係者評価に関する報告書

上宮太子中学校・高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、学校評価主任、学校評価担当を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価主任は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第 7 条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は 5 名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員

- (3) その他、必要に応じて学校が選出する委員
- 2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。
- 3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。
- 4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。
- 5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。
- 6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めるときは、第 7 条第 1 項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。
- 7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第 8 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第 9 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第 10 条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附則

この規定は、平成 23 年 3 月 18 日から施行する。

令和元年度
学校評価に関する
各部署の重点目標

上宮太子中学校・高等学校

部署名	教務部	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- | |
|--|
| (1) 教務運営システムの整備・効率化

(2) 有効な指導体系の継続検討

(3) 国際理解教育の推進 |
|--|

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 教務運営システムの整備・効率化 ① 行事の着実な実施と改良 ※入念な準備, 実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存 ・次年度への引継ぎ ② 教務各系の業務内容と資料の点検・整備 ③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知 ④ 各部署との連携強化による業務効率化 (2) 有効な指導体系の継続検討 ⑤ カリキュラム改良の検討 ⑥ シラバス改良の検討 (3) 国際理解教育の推進 ⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

--

部署名	生徒指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

生徒相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする。		
	1 教職員への啓発・発信	2 スクールカウンセラーと教職員との連携	
生徒会	1 生徒会活動の活性化	2 委員会活動の活性化	
	3 広報活動	4 生徒会活動の研究	5 ボランティア活動
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 2 道徳意識、規範意識の向上		
	3 いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み 4 生徒の愛校心向上		

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生徒相談 1. 研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。 2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。			
生徒会 1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加） 4. クラブ生を主体とした学校の活性化 5. 校外ボランティア活動への参加（インターアクト含む）			
生活指導 1. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施 2. 始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に指導，説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施・生徒自治会との連携 3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校，配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討 4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映 [その他] 新入生対象企画「保護者から生徒への手紙」を提案、実施			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

--

部署名	進路指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

生徒の希望進路実現のため、上善如水の心境で次の各項目に取り組む

- I. 学力向上
- II. 戦略的改革

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>I. 学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 探究活動推進 b. Classi を活用したメタ認知力育成 c. 家庭学習推進 d. 模試の事前・事後指導、結果分析 <p>II. 戦略的改革</p> <ul style="list-style-type: none"> e. 生産性の高い進路指導体制構築 f. 大学入試制度改革の研究 g. アクティブラーニングの研究と啓蒙 h. 読書指導推進 			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	入試対策部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- (1) 高校入試における受験者数安定・増加のための活動
- (2) 上宮学園中学校・上宮高等学校との連携
- (3) 情報の収集・共有化
- (4) 今後に向けての対応策検討

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 高校入試における受験者数安定・増加のための活動 私学無償化の改正や公立校の入試制度改革、少子化の影響もあり、高校受験者も減少してきている。公立中学校において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定・増加させるための活動を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。 ②出張授業や学校訪問などの受け入れ態勢を強化する。 ③公立中学校を通し、イベント告知を重点地域の生徒全員に行う。 <p>(2) 上宮学園中学校・上宮高等学校との連携 上宮学園には、上宮学園中学校、上宮高等学校、上宮太子高等学校の3校がある。広報活動において、上宮と上宮太子の入試対策部で情報交換および活動連携をはかり、学園として効果的に広報活動や生徒募集活動を展開していく。</p> <p>(3) 情報の収集・共有化 受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図りうる環境を整える。</p> <p>(4) 今後に向けての対応策検討 少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討する。</p>			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	国 語 科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和元年度の重点目標（4月末）

1. 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上
2. 各学年の学習指導計画にアクティブラーニングを導入する研究（特に高1/高2学年の教育方法の改革）
3. 受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
4. 教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

2. 令和元年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の学習定着をはかるための方策研究 ② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③ 職員同士での国語力向上についての意見交換 2、 各学年での学習指導内容の研究 <ol style="list-style-type: none"> ① 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 ② 特進コース →センター、国公立の大学入試に即応できる実力養成 ③ 総合進学コース →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 ④ 高1/高2学年の新入試制度に向けた授業改革 →Find!アキティブラーナーの本格的な活用、研究、授業への導入 3、 受験対応力向上へ向けたアプローチ <ol style="list-style-type: none"> ① 各学年における講習の充実 ② 教材や指導法における受験対応力強化の工夫 ③ 授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み ③ 国公立大学・難関私立大学の出題研究 4、 教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック <ol style="list-style-type: none"> ① 予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催 ③ 「論理エンジン講座」「記述講座」「新入試制度研究」をはじめ、教科内の教員による勉強会実施 			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	社会科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- (1) 授業の厳正化と社会科としての強化
- (2) 教科会の活性化
- (3) 入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③中 3 生においては、高校入試で 3 ヶ年の成績を上回る。 ④高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす。 ⑤授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。 ⑥社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑦高校 3 年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	数 学 科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和元年度の重点目標（4月末）

1. 授業の厳正化
2. 数学力の向上
3. 教科会の活性化
4. 研修への参加

2. 令和元年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 <ul style="list-style-type: none"> ・個々のより深い教材研究と教材の共有 ・研究授業の実施 ・各コースの特性を見据えた指導計画と実践 			
2. 数学力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ・各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ・能力に応じた補習、講習の実施 ・大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ・特進コースの国公立大合格率向上 (最後まで目標を持って諦めさせない) ・総合進学コースの一般入試合格率向上 (指定校・AO入試に頼らず、一般入試まで頑張らせる) 			
3. 教科会の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・連絡の徹底と教科内の共通認識 ・教科における情報交換と研修 			
4. 研修への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングやICTについての研修を受け、学んだことを教科会で検討し、導入していく。 			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	理 科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

昨年度までの目標から継続し、以下の 2 つを重点目標とする。

- ① 指導力を向上し、授業内容を充実する。
- ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 指導力を向上し、授業内容を充実する a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導方法を教科内で共有する。 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 c 授業見学や FIND アクティブラーナーを使った授業研究を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。 d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。 e ICT を用いた授業について研究し、新課程研究を進める。			
② 大学入試に対応できる学力をつけさせる f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 g 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	英語科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

予習・復習の習慣をつけさせて、2ポイント UP させる。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①英語力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習や宿題を毎日課し、ノートチェックを週に 2～3 回（最低週に 1 回）。 ・セクション終了毎に小テストで復習の定着。（特進は毎時間小テスト実施） ・授業に音声による活動をできるだけ入れる。 ・辞書を毎回持参させ、4～5回は活用する。 ・英検・GTEC 受験などに向けてオンライン英会話を奨励する。 <p>②指導法の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間の授業を積極的に見学し、改善に努める。 ・授業改善に関わる書籍購入の推進 ・郊外の研修会に積極的に参加。 			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	保健体育科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。
- ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。
- ・ デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない 集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操 服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用 各種目の技術習得 個人技能と集団技能 運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する 各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得 ICTの導入 デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践 心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	芸術科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

1. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
2. 評価、評定の方法について協議する。
3. 行事への協力、取り組み。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 2. 評価、評定の方法について協議する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常点の割合の研究、分析等を行う。 3. 行事への協力、取り組み。 <ol style="list-style-type: none"> ① 聖徳書道展への協力。 ② 芸能鑑賞等、教務部との連携。 			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	技術家庭科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上
- ② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成
- ③ 男女共同参画社会を意識した教育推進
- ④ 教材の整備
- ⑤ 実践的授業の実施計画

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①技術・家庭科に対する学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 （本物志向の展開：本物を見て触らせる） ・未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科との連携を図った授業を展開する。 <p>②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 <p>③男女共同参画社会を意識した教育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 <p>④教材の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし展開できる問題解決的な教材を検討する。 ・情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 <p>⑤実践的授業の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりは行程が重要であるため、構想の表示から設計・製図、材料・工具の研究、製作、仕上げを、計画的に実施する。 ・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。 			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	情報科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ① より良い授業内容にするための検討
- ② PC 教室の活用の促進
- ③ 大学入試制度改革に関する情報収集

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① より良い授業内容にするための検討 ・ 学習効果の高い実習課題の検討 ・ 座学で扱う内容の再構成 ・ 新学習指導要領における教材研究 ② PC 教室の活用の促進 ・ 他教科における PC 教室のより良い運営用法の検討 ・ 放課後等での PC 教室の開放 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	宗教科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ①校訓、学順の理解
- ②授業内容のさらなる充実
- ③宗教行事の理解と実践

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ① 校訓、学順の理解 <ul style="list-style-type: none"> （1） 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。 （2） 礼儀作法について学習、実践をする。 ② 授業内容のさらなる充実 <ul style="list-style-type: none"> （1） 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。 （2） 生徒の理解に適した授業を展開する。 ③ 宗教行事の理解と実践 <ul style="list-style-type: none"> （1）授業において宗教行事の由来、意義を学習する。 （2）生徒参加による宗教行事の実践をする。 			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	中3学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ① けじめある学校生活を身につける。
- ② 基本的な生活習慣を身につける。
- ③ クラブ活動、生徒会活動、ボランティア活動などへのチャレンジ精神を育む。
- ④ 高校に向けての基礎学力の定着。
- ⑤ 将来の仕事を考えさせる進路指導。

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ① 1に掃除、2に勤行、3に学問の考えをもとに挨拶、掃除を大切にし、授業では集中して話を聞くことを指導する。 ② スマホやタブレットの普及により夜更かしする生徒が増えているので規則正しい生活を送るように保護者の方と協力する。 ③ 勉強だけでなく、部活、生徒会活動、ボランティア活動など幅広く興味を持たせ、それらにチャレンジさせる。 ④ 授業を中心に予習→授業→復習のサイクルを充実させ基礎学力を身に付けさせる。 ⑤ 世の中の仕事について考えさせるとともに、自分がなりたい職業、興味ある仕事に意識を向けさせる指導を心がける。 			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	高 1 学 年	担当者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和元年度の重点目標（4月末）

<ul style="list-style-type: none"> ①校則の遵守。 ②基本的な生活習慣の確立と家庭学習を定着。 ③将来の目標設定 ④教員が積極的に生徒への指導を行い、教員・学年担当者の意思疎通を図る。

2. 令和元年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ①「ルールを守る」意味を伝え本校生徒としてふさわしい人材を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・服装、頭髪等の指導を徹底する。 ・授業開始に立腰と黙想をきっちりすることで心を落ち着かせ、授業に対して真剣に取り組む姿勢を育む。 ②生徒との二者面談をし、日々生徒の様子を把握して常に保護者と連絡を密にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・自学習の習慣を身につけさせ、課題等を課し、家庭でも復習・予習を自主的にできるようにする。 ・LITERAS3 級取得に向けて学習し、正しい言葉を使えるようにする。 ・Classi を利用し定期考査の目標と振り返りをさせ、定期考査のみならず、様々な面で Classi を活用する。 ・総合進学コースは早朝テストに英作、読解力養成を組み込み、学習習慣を定着させ、土台を作る。 ③進路行事を利用し、将来の目標を考える機会を多く与える。 <ul style="list-style-type: none"> ・探求の活動を利用し、将来の目標を考えさせる。 ・進路 HR を利用し、適性を考える。 ④担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全員が同じ方向性で指導にあたり、生徒の夢・希望を応援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学年テーマを「本気を出す」とし、教員の様々な面での積極的な指導を促す。 ・担任会の実施し、全員で情報を把握する。 ・定期的な学年担当者会議の実施 			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

--

部署名	高 2 学 年	担当者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①生徒・保護者・教員との密接な連携による基本的生活習慣の確立
- ②当事者意識を持たせ、学力の向上と家庭学習の定着を図る。
- ③自主性・協調性・責任感を育てる行事の取り組み。
- ④担任団・学年担当者・各分掌との意思の疎通。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ①・学期に 1 回は必ず生徒との二者面談を実施し、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする。・基本的生活習慣を身につけさせる。（立腰、挨拶、服装、頭髪、言葉遣いなど） ②・授業に対して真剣に取り組む姿勢を作るため、授業開始に立腰を行うことで心を落ち着かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・目標大学を明確にして、自学習の習慣を身につけさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自分でできるようにする。 ・授業と補講習を充実させ、特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を一般入試で合格するだけの実力をつけさせる。 ③・修学旅行の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・球技大会・校外学習などでは、自主性・協調性を育てるような行事を企画する。 ・上宮祭においては、各クラスの催し物に積極的に参加するよう促し一人ひとりに責任を持たせる。 ・探究学習を利用して、プレゼンテーション能力を身につけさせる。 ④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。 			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	高3学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- (1)校訓「正思明行」・学順の実践
- (2)生徒・保護者・教員の意味疎通
- (3)特進コースは国公立大、総合進学コースは関関同立・産近甲龍をはじめとした指定校推薦に頼らない進学指導
- (4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意味疎通

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導 ②参列者全員が感動の思い出に残る卒業式の実施 (2)①家庭と学校との綿密な連携 ②効果的なLHRや学年集会の実施 (3)①『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり ②競争することを意識した学習への取り組み ③早朝テストで英語中心に実施することによる大学入試を意識した毎日の家庭学習の習慣の確立 ④定期考査前の補習の実施 ※総合進学コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②英語・数学・国語で全国偏差値50以上を目指す ③指定校推薦に頼らない大学進学 ※特進コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②英語・数学・国語で全国偏差値60以上を目指す ③国公立大合格に向けた指導 (4)①学年担当者会議の可能な限りの実施 ②日常の会話による生徒の情報交換			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	人権教育	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ① 学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成
- ② 育てる人権教育の実践
- ③ いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する ②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する ③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する いじめをテーマにした人権教育LHRの実践			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	保健管理	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
4. 学校保健組織活動の円滑な推進

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 発達支援や配慮を必要とする生徒の学校保健情報の共通理解と具体的支援方法のあり方を示す。 ② 救急処置の迅速な対応、けがの予防と指導（数値化） ③ 定期、臨時の健康診断の円滑な実施と事後処置の充実 ④ 学校感染症の予防と発生時の迅速な対応（風疹、麻疹、インフルエンザ予防接種勧奨） <p>2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心身の健康課題を見出し、発達段階に応じた個別・集団的保健指導の実践、生活習慣と学習との関連を研究 ② 行事や時節に合わせた保健指導の充実 ③ 保健室ホームページ充実、学校医等関係機関との連携 <p>3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒、保護者が相談しやすい環境づくりとその問題の背景・要因を的確に把握し、全教職員と情報交換を図る ② SC と生徒相談、関係職員との連携、共通理解を図る ③ 不登校、いじめ事象等の迅速な把握と減少をめざす。 <p>4. 学校保健組織活動の円滑な推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の組織的運営の確立 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（検診準備及び補助、啓発活動、心身の健康に関する情報発信） 			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	図書教育	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①図書室の運営管理の充実
- ②図書の充実
- ③読書活動の推進
- ④利用生徒数の向上

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実 (1) 開館時間の安定 (2) 館内内の整備 ②図書の充実 (1) 購入図書の選定および購入 (2) 希望図書への配慮 (3) 蔵書の整理 ③読書活動の推進 (1) 読書の啓発 (2) 図書館だよりの定期的な発行 ④利用生徒数の向上 (1) 図書室利用の推進 (2) 委員会の活動の推進			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	広 報	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ① ブログの更新回数アップを目指す。
- ② ホームページの更なる改良。（利便性の向上・バナー等の精査）
- ③ 道路沿いの、横断幕の利用方法についての検討。
- ④ SNSの活用の検討。

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① ブログの更新回数アップを目指す。</p> <p>広報の係でブログをアップする曜日の担当を決めて更新回数の増やすことを目指す。</p> <p>② ホームページの更なる改良。（利便性の向上・バナー等の精査）</p> <p>昨年度のアンケートを検討し、向上を目指す。</p> <p>③ 道路沿いの、横断幕の利用方法についての検討。</p> <p>見やすさと、インパクトのあるものを作成</p> <p>④ SNSの活用の検討。</p> <p>時代の合わせた広報活動の研究</p>			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	業務推進室	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ① 成績処理の効率化
- ② 個人情報の管理の徹底
- ③ 環境の充実
- ④ 業務軽減への方策

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ① 共有文書等のデータによる活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用 ② 個人情報の管理の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底 ③ 環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底 ④ 業務軽減への方策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂 			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	学校評価	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①学校評価に関する企画・立案・実施
- ②学校評価の報告書の作成・提出
- ③授業アンケートに関する企画・立案・実施
- ④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①平成 31 年（令和元年）度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成			
②平成 30 年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成			
③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討			
④学校関係者評価に対する資料作成			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	事務室	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上
- ②企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)
- ③校内・教育環境のさらなる整備

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の業務を他の職員とコミュニケーションをとりながら効率的かつ確実に進めていき、組織的な業務の質の向上を目指す。 ・マイナンバー等の個人情報に関わる資料の慎重な取り扱い、また、その他の重要資料に関しては数人で確認し合う必要がある。 ・普段の教職員とのコミュニケーションにより子どもたちや保護者の意見を聞きながら・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。 ・稟議一覧を教職員の誰でも閲覧できるように公開する。 ・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。 ・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。 <p>② 企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした特色ある学校づくりを、進めていき、HP・学校案内・説明会をうまく活用しながら <p>情報発信をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく。また、教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有する。 <p>③ 校内・教育環境のさらなる整備（継続）</p>			

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

令和元年度

各部署の中間評価報告書

上宮太子中学校・高等学校

学校評価委員会

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	教務部	責任者名	
取り組み内容に対するの中間評価（項目別でも、全般的でも可）			
(1) 教務運営システムの整備・効率化			
<p>各行事内容や各部署からの連絡については、週の初めに校内ネットワークを通じて連絡事項を配信するシステムを確立した。閲覧状況は半数程度であるので、今後徹底をしてきたい。各行事については生徒会・入試対策部等との連携により、大きなトラブルもなく実施できた。特に生徒を全面に押し出し、体育大会や文化祭において生徒主体の運営が確立しつつある。よりよい運営に向け、実施後のアンケート等を活用して来年度に向けて改善を図っていききたい。</p>			
(2) 有効な指導体系の継続検討			
<p>教務内規については、研究・検討を進めている。特に来年度の新生より3コース制が導入されることに伴い、新カリキュラム及びコースの特色に応じた授業内容を検討している。</p>			
(3) 国際理解教育の推進			
<p>9月よりインドネシアの交換留学生を受け入れた。さらにインドネシアからの修学旅行生との交流事業を通じて国際理解に努めている。また11月よりタブレットパソコンを導入して、英語の4技能に応じた速読演習を行っている。</p>			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）			
【年度末に向けての検討事項】			
① 大学入試改革への対応の為の調査書の検討・作成。			
② 生徒手帳の改編。			
③ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携。			
④ 教務内規・考査規定の再検討。			
⑤ 中学校卒業式の実施方法についての検討。			
<p>※課題は山積の状態である。積極的に取り組んでいきたい。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	責任者名	
<p>取り組み内容に対する中間報告</p> <p>生徒相談 研修会への参加・カウンセリングの日程調整等順調に進んでいる。 スクールカウンセラーによる教職員への研修は、3学期に予定している。</p> <p>生徒会 行事は順調に取り組めている。 委員会活動は、各先生の努力で取り組んでいる。 インターアクトの設立に向け校内の体制も整いつつあり、ロータリークラブとの打ち合わせも順調に進んでいる。</p> <p>生活指導 1・2・3については、担任・生活指導担当教員との協力のもと実行できている。 4については、今後も継続して検討していく。 校長先生との対談会で生徒との意見交換をし、生徒心得の見直し・検討を行う。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>生徒相談 問題点は特になし。</p> <p>生徒会 クラブ生を主体とした学校の活性化は今後の課題。 インターアクト部設立パーティーの準備を進める。</p> <p>生活指導 生徒の規範意識向上の強化に当たる。</p>			

令和元年度各部署の中間評価
報告書

部署名	進路指導部	責任者名	
<p>取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>I. a. <u>探究活動推進</u> おおむね予定通りすすんでいるが、次年度に向けて、より工夫が必要である。</p> <p>b. <u>Classi を活用したメタ認知力の育成</u> あまりすすんでいない。次年度、うまくキャリアパスポートと連携させたい。</p> <p>c. <u>家庭学習推進</u> 高校1年生に対してスタディサプリの課題を課しているが、生徒の家庭学習の向上につながっているか疑問である。</p> <p>d. <u>模試の事前・事後指導（レビュー）、結果分析</u> 教科担当者の事前・事後指導は定着しつつある。生徒の振り返りも志望理由書との連携がすすんでいる。</p> <p>II. e. <u>生産性の高い進路指導体制構築</u> 業務全体の見直しと協力体制構築について、さらなる改善の余地がある。</p> <p>f. <u>大学入試制度改革の研究と啓蒙</u> 大学入学共通テストにおける民間試験の活用や記述式導入の延期に対応して、情報発信につとめている。</p> <p>g. <u>アクティブラーニングの研究と啓蒙</u> 各教科に外部セミナーへの参加を呼びかけつつ、Find!アクティブラーナーを積極的に活用していきたい。</p> <p>h. <u>読書指導推進</u> 各教員個人任せで、分掌として取り組めていない。図書室に対して、推薦図書の提示は行った。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>I. a. 指導担当者と連携しつつ、指導法を工夫していく。</p> <p>b. 振り返りの重要性を生徒に伝えていく。</p> <p>c. スタディサプリ導入の時期を含めて、指導法を研究する。</p> <p>d. 先生方に加え、生徒へも情報提供を行い、学習意欲の向上につなげたい。</p> <p>II. e. 業務マニュアルの作成を通じて、業務の削減や分担について、検討を続ける。</p> <p>f. 引き続き、情報提供を中心に行っていく。</p> <p>g. 外部セミナーへの参加呼びかけや他校視察を積極的に行っていく。</p> <p>h. 有効な対策を立てることが難しい。読解力をつけていくためにも、ある程度は、強制力を持って課題図書などを提示していくことも考える必要がある。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>(1) 高校入試における受験者数安定・増加のための活動</p> <ul style="list-style-type: none">① 公立中学校に対して訪問数は昨年より増加させており関係強化に努めている。② 公立中学校での学年全体に対する講演会などが増えている。③ オープンキャンパスのリーフレットは重点地域の中3生すべてに配布した。近隣に対しては複数回リーフレットを配布した。④ 塾と中学校と密に連携がとれるよう、イベント終了ごとに参加者の報告をした。 <p>(2) 上宮学園中学校の活動</p> <p>上宮との連携を図りながら上宮学園中学校の広報活動を行っている。</p> <p>(3) 情報収集・共有化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 渉外活動や研修会参加において情報収集は積極的に行っている。入試対策部内での共有は概ね図れているが学校全体での共有は達成できていない。 <p>(4) 今後に向けての対応策検討</p> <ul style="list-style-type: none">・ 収集した情報をもとに、検討中である。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <ul style="list-style-type: none">・ (1) について <p>塾や中学校を通し、積極的に案内をかけていく。説明会への動員数を増やすよう広報活動を行っていく。特に今まで関わりのあった受験生に対し、塾を通じてのアプローチを強化していく。公立中学校との関係も深まってきたので、中学校からのアプローチも行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ (2) について <p>今後もより一層の連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ (3) について <p>学校全体での情報共有化が行えるような方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ (4) について <p>今年度は近隣の学校の動きが目立つ。他校の広報戦略や取り組みも参考にしながら具体的な動きにつなげていけるよう、部内での意見を集約し検討していきたい。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国語科	責任者名	
-----	-----	------	--

(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)

10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価(項目別でも、全般的でも可)

- ①② 特進コースと総合進学コースでの取り組みの差を改善したい

③ 教科会ではある程度の話は出来ている。日常的なアドバイスなどを充実させたい
- ① 実際、3年生以外は模試の確認にまで手が回っていない。全体的な実力アップのために、早急に取り組むべき課題であるとする

② 各学年、カリキュラムに従い丁寧に取り組んでいる

③ 担当者の取り組みは充分であるが、指定校・AOが多く生徒の受験数が少ないのが残念

④ 新制度自体が変更(記述式導入延長)となり、これから情報収集及び研究が必要となる
- ① 各学年で実情に応じ、実施されている

② 特に、総合進学コースの底上げという意味でしっかりとした授業研究がさらに求められる

③ 各授業、かなり定着してきている。基礎力定着のために継続して取り組みたい

④ まだまだ足りない。高3担当以外の先生がもっと積極的に取り組むべき。
- ① それぞれ、教科だけでなく学年や分掌でも積極的な参加をした。

②③ 教科会の時間だけでなく、勉強会の時間も設けて教科内での共有を心がけた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容(項目別でも、全般的でも可)

特進コースでのカリキュラムや授業の進め方は、ある程度方向性が見えてきている。3学期以降は、来年度も継続して新テストへの対応を中心に取り組んでいきたい。

喫緊の課題は、全体的な国語力の弱さをどう克服するかだと考える。特に、早急に取り組むたいのは、総合進学コースの底上げである。中には、ICT(動画含む)や自作マンガなどを有効的に使い、先進的な取り組みを頂いている先生もおられるが、現状、受け身の授業がまだまだ主流である。この事態を打開し、授業の中に「思考、判断、表現」を盛り込みながら、生徒の興味喚起、成績伸長につなげられる授業を教科全体で研究し、実践していきたい。

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	社会科	責任者名	
<p>取り組み内容に対する中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>(1) 授業の厳正化と社会科としての強化は、概ね達成できていると思う。ICTを活用した授業展開も増加しつつある。</p> <p>(2) 最低限度の教科会しか実施できていないため、情報交換が不徹底であった。</p> <p>(3) 最後のセンター試験に向け、最大限の対策をしていきたい。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>高3日本史において、教科書が最後まで行かなかった。今後は、日本史・世界史・地理・公民のチーフを設定し、今後はこのようなことがないようにしなければならない。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数 学 科	責任者名	
<p>(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)</p> <p>10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。</p> <p>取り組み内容に対しての中間評価(項目別でも、全般的でも可)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 授業の厳正化 各自の教材研究と教員間の教材の共有はおおむね出来ている。研究授業の実施は出来ていない。コースの特性を見据えた指導計画と実践はおおむね出来ている。2. 数学力の向上 コースによってばらつきはあるが、家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進出来ている。模擬試験対策も授業の中で行い、やり直しも徹底出来ている。補講習に関しては、現状としてできていない。大学入試問題の研究・研修と生徒への還元は特に高校3年生では出来ている。3. 教科会の活性化 連絡の徹底と教科内の共通認識をもち、教科における情報交換は積極的に出来ている。4. 研修への参加 現在の段階ではなかなか出来ていない。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容(項目別でも、全般的でも可)</p> <p>特進コースはある程度方向性が見えてきている。3学期以降も継続して授業に取り組んでいきたい。</p> <p>大きな課題は総合進学コースの1年、数学I+A、2年理系の数学の学力向上である。特に高1は数学に対して苦手意識を持つ生徒が多く、学習意欲を持たせるためにもっと工夫が必要だと思われる。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理科	責任者名	
<p>(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)</p> <p>10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。</p> <p>取り組み内容に対しての中間評価(項目別でも、全般的でも可)</p> <p>① 指導力を向上し、授業内容を充実する</p> <p>a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。 また、指導方法を教科内で共有する。 →各科目ご担当の先生型の尽力により、これまで以上に実験が行われ、生徒に還元されている。科目内での教員間の情報共有や意見交換も行われている。</p> <p>b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 →各科目内において研究、実践が行われている。</p> <p>c 授業見学やFIND アクティブラーナーを使った授業研究を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。 →意見交流はできていないが、各々においての授業研究は行われている。</p> <p>d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。 →各々においての授業研究は行われている。</p> <p>e ICTを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。 →例年に引き続き、改良を加えながら実践している。</p> <p>② 大学入試に対応できる学力をつけさせる</p> <p>f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 →各科目内において必要に合わせて実践されている。</p> <p>g 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。 また、課題の与え方について検討する。 →各科目内において実践されている。</p>			

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

- ・今年度は、私自身の部署の異動で、新たな部署での仕事に合わせるのが精いっぱい、理科の方はほとんど顧みない年になってしまった。教科会はほとんど実施していない（連絡等は、各先生方に直接行っている）ような状態である。そのため上記の①-④は、進められなかった。ただし、各科目での研究は先生方によって実施されている。物理・化学では実験を積極的に行っており、生徒に考える機会を提供できている。旧来の形ではあるが、思考学習として実験は十分有効な手段で、理科本来のあり方が実践できている。
- ・理科の先生方は意識が高く、授業の進め方や教材、演習等の研究に余念がない。生徒にとって難しい内容ではあるが、どの先生も大変な熱意をもって生徒に向き合っている。
- ・科目ごとでの話し合いはよく行われている。教科書および副教材の選定においても、真剣に話し合い、良識をもって決定している。
- ・今年度は、入試問題案の提出率がとても高く、入試問題作成がとてもスムーズに進められた。大いに助けられた。

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	責任者名	
<p>①英語力の向上にむけて</p> <p>各先生方がこまめに予習のノートチェックや復習のための小テストを実施してくれています。 また、辞書を特にコミュニケーションの授業では活用してくれています。</p> <p>オンライン英会話を今年度初めて導入しましたが、2年生の特進コース全員と総合進学の一部の生徒が活用しています。</p> <p>② 1月26日に関大の田尻先生の講習会にほとんどの英語科の先生が参加してきました。 また、来年度からの4技能を出来るだけ使える授業に改善すべく、書籍購入も少しずつ進んできています。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>来年度、教材がかなり変わりますのでより一層の研修が必要に思えますので 授業方法に関するDVDなどを購入し、先生方に見てもらおうつもりです。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	責任者名	
<p>(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)</p> <p>10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。</p> <p>取り組み内容に対しての中間評価(項目別でも、全般的でも可)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。・ デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容(項目別でも、全般的でも可)</p> <p>実際の運動以外の生活態度などに通じる項目であり日々の姿勢が大事だと感じます。</p> <p>運動自体の全体的に能力が低いと感じる、できる競技とできない競技がはっきりしている。</p> <p>保健の授業での活用。板書の時間が短縮され、講義の内容が今までよりも濃くなっている。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	芸術科	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価</p> <p>(1) 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <ul style="list-style-type: none">・三科目とも実技を中心に行いながら、歴史的なことや学問的なことにも触れ、授業が進められている。 <p>(2) 評価評定の方法について協議する。</p> <ul style="list-style-type: none">・教科会にて何度か評定の在り方について話したが、今も進行中である。 <p>(3) 行事への協力、取り組みについて。</p> <ul style="list-style-type: none">・聖徳書道展において展示のレイアウト及び展覧会の運営に少しばかり協力できた。・上宮祭においても文化的な発表面で、協力できた。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・芸術は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価、評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。			

令和元年度 中間評価

報告書

部署名	技術家庭科	責任者名	
<p>①技術・家庭科に対する学習意欲の向上</p> <p>提出することや内容を整理することの重要性を理解させ、当たり前を自覚させることに努めている。</p> <p>②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成</p> <p>高校2年生は意識も高まり、意欲的に考えを深めることができ、発言ができています。</p> <p>中学3年生は専門的な知識に戸惑いながらも、学習することの大切さを感じています。</p> <p>③男女共同参画社会を意識した教育推進</p> <p>男女間だけでなく、LGBT などについても言動など気をつけて指導しています。</p> <p>④教材の整備</p> <p>今整備されているもので十分実習が行えているので、修理や修繕で補っている。</p> <p>⑤実践的授業の実施計画</p> <p>来年度高校生は2単位になるため、より有効な実習ができるよう、情報を収集している。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>授業のマンネリ化があるので、より実用的な内容を高校生に伝えやすくし、工夫していきたい。</p> <p>特に、3学期は消費者生活の分野でもあり、18歳よりさまざまな契約が可能になる。今以上に若者の契約トラブルが増えることが予測されるので、消費者庁や国民生活センターからの公的な情報はもちろんだが、あらゆる消費者トラブルにアンテナをはって、生徒たちに授業の中で注意喚起を行っていきたい。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価</p> <ul style="list-style-type: none">①・ 学習効果の高い実習課題の検討については、検討できた。<ul style="list-style-type: none">・ 座学で扱う内容の再構成については、実施した。・ 新学習指導要領における教材研究については、十分とは言えない。②・ 他教科におけるPC教室のより良い運用方法の検討については、検討できていない。<ul style="list-style-type: none">・ 放課後等でのPC教室の開放については、実施できていない。③・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集については、十分とは言えない。<ul style="list-style-type: none">・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加については、検討中である。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">①・ 新学習指導要領における教材研究については、継続して実施する。②・ 他教科におけるPC教室のより良い運用方法の検討については、継続して検討する。<ul style="list-style-type: none">・ 放課後等でのPC教室の開放については、継続して検討する。③・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集については、今後も取り組む。<ul style="list-style-type: none">・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加については、今後も取り組む。			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	
<p>(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)</p> <p>10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。</p> <p>取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>①日常の挨拶について、少し元気がない。法然上人像への礼など徹底していきたいです。</p> <p>②授業開始の「一枚起請文」は元気に奉読できていると思います。授業時間により元気のない時もあります。</p> <p>授業においては各学年に応じた授業展開、内容の工夫が必要です。</p> <p>③高校1年生は全体的に元気だと思います。高校3年生は、「生命の尊さ、生きるとは？」というテーマを考える、アクティブラーニングに関心をもってくれています。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>①、②の項目とも2学期になり生徒の気持ちの緩みを感じます。元気な時、疲れている時の差があるように思います。始業での立腰、合掌、礼、など威儀作法について生徒に指導していきます。高校3年生においても、受験合格後の気持ちの緩みを少し感じます。卒業まで修行は続くという気持ちを持っていくよう指導していきます。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	中学 3 年	責任者名	
<p>① 一日の始まりは大きな声で挨拶することの大切さを話して、みんなができるような環境づくりを目指した。掃除の時間はみんなが自分の分担を意識させた。</p> <p>② 学力推移調査の学習実態調査では、スマホや携帯の利用時間が 2 学期になって増えていたことが明らかになった。2 学期の懇談で保護者に伝え、特に 1 日 3 時間以上利用生徒の保護者には注意を促した。</p> <p>③ クラスの中で 4 人が生徒会役員として学校行事に積極的に取り組んでくれている。その生徒たちの活躍をみんなの前で披露し、がんばりをたたえた。</p> <p>④ 2 学期から授業に集中する生徒が増えてきた。特に習熟度基礎クラスの生徒の中で、わかりたいと意欲的に取り組む態度が向上してきた。</p> <p>⑤ 社会の仕組みや自分の興味がある仕事へ意識を向けていく指導が必要である。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>中学 3 年生としての更なる自覚を促すようにしたい。学習面では、学習内容がより難しくなるので復習をじっくり行い、学習内容を定着させるように指導していく必要がある。</p> <p>高校に向けて、中学の学習内容を確実に身につけ、高校の授業についていけるように自信をつけさせたい。</p> <p>また、スマホ・携帯の利用時間が増えていることに対しては、優先順位を再確認させ、学習時間をしっかりと確保させたい。</p> <p>今自分の興味があるものや、好きなものから将来の進路につながるような指導を目指したい。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高 1 学 年	責任者名	
<p>(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)</p> <p>10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。</p> <p>取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>① ルールを守ることが少しずつ出来るようになり、服装、頭髪等の指導を徹底出来ている。教員が積極的に指導し、その意味を伝えている。2学期に入り生徒も落ち着き、授業も真面目に取り組めている。</p> <p>② 生徒との二者面談も行い。日々生徒の様子を把握して常に保護者と連絡を密に出来ている。全員が基本的な生活習慣を身につけてはいないが、おおむね、良い習慣が定着している。</p> <p>自学習の習慣はなかなかみについていない。課題等を課し、家庭でも復習・予習を自主的にはできていない。</p> <p>LITERAS3 級取得に向けて全員が真面目に学習し、正しい言葉を使おうとしているのは見て取れる。</p> <p>Glassi の利用に関しては担任間で若干の差が出来ているが概ね積極的に活用できている。</p> <p>早朝テストの英作、読解力養成テストは生徒達も積極的、意欲的に取り組んでいる</p> <p>③ 探求活動は積極的には取り組めていないが、進路 HR を利用し将来を考えだす生徒が増えてきている。</p> <p>④ 教員が様々な面での積極的な指導をし、教員間の連絡は密に取れているが、定期的な担当者会議は出来ていない。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>入学時はなかなか落ちていて授業に取り組めなかった部分もあるが、2学期になり、落ち着いて何事にも取り組めるようになった。全ての教科の土台となる国語力、読解力の育成に力をいれ、その上に英語に力をいれるようにしたことで、少しずつ集中して取り組めるようになっている。</p> <p>また、英単語を覚えるだけでなく、英作文に力をいれることを継続することで、英語には苦手意識が少なくなっている。</p> <p>担任だけではなく、教科担当の教員も積極的にかかわり、学年として明るく真面目な生徒が育っている。今後、総合進学コースの学習習慣の定着が課題である。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高2学年	責任者名	
-----	------	------	--

- ① 日々、生徒の様子を把握し、週1回の担任会に於いて情報を共有した。保護者との連絡を密にして家庭での生徒の様子を知り、また、学校での様子を保護者に伝えることで保護者に安心感を与えた。進路や学習への取り組みや現状把握のために、1学期・2学期とも全員と二者面談を実施した。
- ② 授業に対する姿勢をつくるために、立腰・黙想で心を落ち着かせた。
特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を入試で合格するだけの実力をつけさせるために、授業内容の充実と早朝テスト・補講習の充実につとめた。
やらされる勉強ではなく、自ら目標・目的を持ち、自己実現に向けて、自学習に取り組む習慣付けをもたせる努力をした。
- ③ 上宮祭では一人ひとりに責任を持たせ、役割分担をすることで、全員参加の行事にすることができた。各クラスに於いても、かなり盛り上がり取り組み、達成感を得ることができた。
探究授業に於いては、1年のときと同様にクラスで課題に向き合わせ、最後は各クラス代表1チームずつを多目的教室で発表するという形をとった。
- ④ 担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全員で生徒の夢・希望を応援したいが、学年担当者会議が開けなかった。

今後の取り組み

夏休み明けから上宮祭、宿題考査、芸術鑑賞と行事が続いていたが、9月中旬から落ち着かせるため二者面談をし、模試の結果も踏まえながら、将来の夢を確認し、目標大学を決めて、合格に向けてどう行動すべきかを一緒に考えた。まだ具体的に何をどうすれば良いかがわからない生徒もいるので、自分の将来であることを自覚させ、早く行動に移させることが大事である。

各教科がそれぞれバラバラな動きをするのではなく、同じ方向を向いて同じ目標で動くことによって、個々の生徒の学力を引き上げることができるので、教員間の情報共有が大事である。

修学旅行については、これからファーム・部屋割りについて、生徒たちで考えさせる。生徒たちが一生の思い出となるような行事にしたいと考えている。球技大会は3学期で検討中。

修学旅行でのファームや、入試・英検に於いて特にリスニング・スピーキング力が必要となるので、英語科からの案で、総合コースにも英会話オンラインシステムを紹介した。これからも、英語力向上に努める必要がある。

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高3学年	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順を意識しての指導はできている。</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員の意思疎通は、概ねできている。しかし、一部保護者の対応に慎重にならなければならない。</p> <p>(3) 特進コースにおいては、国公立大学を意識させる指導ができている。 総合進学においては、昨今の私立入試の難化も影響し、指定校推薦を希望する生徒が増加した。</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携は、概ねできていると考える。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>現在の指定校推薦の選考方法は、クラス担任の負担が大きすぎる。現場の意見を最優先した改良をお願いしたい。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人権教育	責任者名	
<p>(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)</p> <p>10月31日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。</p> <p>取り組み内容に対するの中間評価 (項目別でも、全般的でも可)</p> <p>①高校1年生はインターネット、携帯電話の利用と人権に関する調査を行いました。部落問題においても、差別に対する考え、意見をアンケートに答えていました。</p> <p>②高校2年生は在日外国人問題について、外国に対するアンケートを実施しました。修学旅行前に高校生としての考えがうかがえました。</p> <p>③高校3年生は就職差別についてアンケートを実施しました。受験前後の高校3年生として、将来に無関係ではないという事実を伝えました。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 (項目別でも、全般的でも可)</p> <p>①人権教育LHRの時間に第五部会の会議が重なることが多く、実践の時間が十分になかった。</p> <p>②差別の歴史を詳細に学習することも大切であるが、現代の差別は加速度的に拡散していく事実も伝えていかねばならない。特に、インターネット、スマートフォンなどを通じて間違った認識、知識による差別、偏見について考えねばならない。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健管理	責任者名	
			<p>1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 定期・臨時の健康診断実施は一部、役配を縮小したが、男女やプライバシーに配慮した学校教育活動の一環として遂行できた。配慮を必要とする生徒の把握と共通理解では、保護者、各学年団と常に情報共有を行い、組織的な対応ならびに支援を行うことができた。麻しん・風しんの罹患歴・予防接種歴の調査を行い、予防接種勧奨等の周知を図ることができた。</p> <p>2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 心身の発育・発達、特性に応じた健康課題に向けた個別の保健指導を行った。また、集団的保健教育では、保健委員を中心に、生活習慣と健康・学習に関する課題を協議し、アンケート結果を分析した。特に上宮祭において、自他ともの将来の健康につながる「がん教育」に取り組み、自主的、主体的な活動で理解を深めることができた。また、今年度は、ホームページ（Health care Room・Health care News）においても健康教育を充実することができた。</p> <p>3、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 男女の発達特性を鑑み、相談しやすい環境作りに努めた。専門性を活かし、一人ひとりの心に寄り添うことに留意し、面談終了後には担任、保護者、学年主任等と組織的な連携、特に教育相談（SC）とは強く連携を深めている。</p> <p>4、学校保健組織活動の円滑な推進 生徒保健委員活動では、生徒主体で、本校の健康課題について協議し、各学年リーダーを選出して、アンケート調査、研究を行い、啓発活動を実践した。上宮祭においては「がん」に関する掲示・展示を行った。保健所の指導のもとに、食品衛生の啓発活動を推進することができた。常に、学校医、保健所との連携を図り、その指導のもとに実践をしている。</p>
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 今後も学校感染症の流行の兆しをいち早く入手し、学校医、保健所等の指導のもと予防接種勧奨等の感染予防と発生時の迅速な対応、予防啓発活動を積極的に行う必要がある。また、救急処置対応だけでなく、けがの予防に努めるために、スポーツ振興センター請求の実態についての数値化や予防啓発教材を活用して、けがの予防に関する情報発信を進めていきたい。</p> <p>2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 生活習慣と学習との関連、将来に向けての健康増進が図れるように、自律的な実践ができるように推進したい。また、保健室頻回来室者や生活習慣の乱れがある生徒、欠席過多の生徒に対して予防的教育に努める。今後もホームページ等、ICTの活用を推進していきたい。</p> <p>3、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 心身に問題を抱える生徒の情報は、担任、保護者だけでなく、SC後の状況についても、必要に応じて報告を行い、最新の情報共有によって連携を深めていく必要がある。また、様々なアンケートの結果や生徒の言動もあわせて心の問題に注意を払い、組織的連携を常に図ることが急務である。</p> <p>4、学校保健組織活動の円滑な推進 生徒が主体的に活動できる保健委員会活動の企画（講演会や発表）、ホームページの作成や保健ニュース作成など、生徒会や各委員会、分掌の協力を得て、引き続き推進していきたい。しかし、その委員会活動において時間を捻出することが難しい。</p>			

令和元年度 中間評価

報告書

部署名	図書教育	責任者名	
<p>①図書室の運営管理の充実</p> <p>(1) 開館時間の安定</p> <p>極力開館するよう心掛けているが、行事や会議などは閉館することがあり、働き方改革の影響で閉館時間は短くなっている。</p> <p>(2) 館内内の整備</p> <p>NDC 順に配列、新刊の配架、特集コーナーの設置、返却ボックスの設置など。</p> <p>②図書の充実</p> <p>(1) 購入図書の選定および購入</p> <p>学期ごとに選定し、予算を考慮しながら進めた。</p> <p>(2) 希望図書への配慮</p> <p>まだ検討すべきこともあるので進められていない。</p> <p>(3) 蔵書の整理</p> <p>高校の蔵書分を随時行っている。中学校の書庫分が手付かずなので、時間をつくって進めていく予定</p> <p>③読書活動の推進</p> <p>(1) 読書の啓発</p> <p>読書週間の告知がほとんどできなかったもので、図書館だよりを通じて発していきたい</p> <p>(2) 図書館だよりの定期的な発行</p> <p>毎月発行できている</p> <p>④利用生徒数の向上</p> <p>(1) 図書室利用の推進</p> <p>他教科やクラスで利用してもらうことで、興味関心を高めてもらうようにする。</p> <p>(2) 委員会の活動の推進</p> <p>整理整頓では大いに活躍できた。今後は自主的な活動を促していきたい。</p>			

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

今までは担当者任せで、図書の見え方がたくさんあり、独自の管理方法だったため、引き継ぐたびに管理体制の歪みがでていた。書庫の中は古い書籍や所在のわからない資料など煩雑に収納されており、貴重なスペースが有効に利用されていないなど、あらゆる問題点が残されていたが、書庫を整理することで改善に向けたおおよその方向性は整理できた。しかし、まだまだ整理も管理も整った状態ではないので、新しいことを取り組みつつ、本来あるべきかたちの学校図書館を形成していかなければならない。そのための人材（学校司書のような）を増やし、ともに進めていけるよう図書教育を推進するための努力をしていきたい。また、現段階で、おおむね改善すべき項目や年間の仕事内容が把握できてきたので、来年度は活気ある運営が必要になる。さらに仕事を精査・整理し、整備していかなければならない項目を仕分けし、活用できる図書室をつくっていきたい。

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広 報	責任者名	
<p>取り組み内容に対する中間評価</p> <p>①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。(特に女子に有効な見せ方)</p> <p>今年度の学校案内に関しては、女子の評判はますます良好だと思われる。しかしながらホームページ、ポスター、リーフレット等、他校と比較した場合、改善の余地は多々あると思われる。</p> <p>②ブログのアップ回数を2日に1回のペースを目指す。</p> <p>行事等がある時は、更新できるが、平常授業が続くと更新内容を見つけるのに苦心する。</p> <p>ブログのアップ回数は、目標には及んでいない。</p> <p>③道路沿いの、横断幕の利用方法についての検討。</p> <p>検討は進まず、昨年度並みの利用となっている。今後も継続的に検討し、「見やすさと、インパクト」のあるものを作成していきたい。</p> <p>④SNSの活用の検討。</p> <p>他校の状況を調査中。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>・年末年始に向けホームページの閲覧回数が増えるので、内容を充実させていきたい。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	業務推進室	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価</p> <ul style="list-style-type: none">①・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用については、一部で実施できている。②・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起は、学期に1回程度実施している。<ul style="list-style-type: none">・ 個人データの管理の徹底については、新任研でのみ実施した。③・ ファイルサーバ内のフォルダの整理については、一部で実施しているが十分とはいえない。今後も継続して取り組む。<ul style="list-style-type: none">・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底については、また十分とはいえない。継続して取り組むつもりである。④・ 分掌内での情報の共有化の徹底は十分とは言えない。<ul style="list-style-type: none">・ 効率的な業務の分担の実現は、部分的にできている。・ 作業マニュアルの改訂は、十分とは言えない。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">①・ 各種書類の印刷量の削減については、今後も提案していく。②・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については、学期末に実施を検討中。<ul style="list-style-type: none">・ 個人データの管理の徹底については、継続して取り組む予定である。③・ ファイルサーバ内のフォルダの整理については、年度末までに実施する。<ul style="list-style-type: none">・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底については、今後も取り組む。④・ 分掌内での情報の共有化の徹底は、Classi等を活用して実施する。<ul style="list-style-type: none">・ 効率的な業務の分担の実現は、今後も段階的に増やしていく。・ 作業マニュアルの改訂は、年度末に向けて順次更新していく。			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	学校評価	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>①学校評価に関する企画・立案・実施</p> <ul style="list-style-type: none">・新しい立案はできていないが、例年通りの内容は予定通りに進んでいる。・今年度は3年に一度の保護者、教員、生徒アンケートも実施する。12月の実施に向け準備中である。 <p>②学校評価の報告書の作成・提出</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度に発表予定の昨年度結果報告書は完成している。11月発表に向けての準備は終了した。 <p>③授業アンケートに関する企画・立案・実施</p> <ul style="list-style-type: none">・11月実施に向け、予定通り準備ができている。 <p>④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価委員会(6/24実施)、学校関係者評価委員会(7/19実施)も予定通り実施できた。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）</p> <p>現在のところ特に問題もなく予定通りに進んでいる。</p> <p>今年度は3年に一度の保護者アンケート、教員アンケート、生徒アンケートを実施するが、結果そのデータを有意義に活用できるよう取り組んでいきたいと考えている。</p>			

令和元年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	責任者名	
<p>取り組み内容に対するの中間評価</p> <p>① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持</p> <p>職員とのコミュニケーションをよくとることができ、効率的かつ組織的な業務を進めていくことができた。また、教職員とのコミュニケーションにより配慮が必要な家庭への対応もできた。</p> <p>② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり）</p> <p>令和2年度から新しいコースが誕生するため事務室としてはHP等を活用し外部にさまざまな情報を発信できた。</p> <p>③ 校内の・教育環境のさらなる整備</p> <p>施設やエアコン等の設備の劣化が増えてきているなか、優先順位を考え適切に対応できた。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持</p> <p>他の職員とコミュニケーション、連携をとりながら、さらに効率的かつ組織的な業務・作業が進められるようにしていく。</p> <p>② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり）</p> <p>「特色ある学校づくり」の為に、具体的な情報を把握し、教務部、入試対策部を中心に連携しながら運営に関わっていく。また、新しいコース宣伝の為にHP等を活用しながらさらに情報を外部に発信していきたい。</p> <p>③ 校内の・教育環境のさらなる整備</p> <p>体育館の改修等、子どもたちが良い環境で充実した学校生活をおくることができるように検討していく。</p>			

令和元年度

学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子中学校・高等学校
学校評価委員会

部署名	教務部	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- (1) 教務運営システムの整備・効率化
- (2) 有効な指導体系の継続検討
- (3) 国際理解教育の推進

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 教務運営システムの整備・効率化			
① 行事の着実な実施と改良 ※入念な準備, 実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存 ・次年度への引継ぎ	B	B	①各部署と連携を取り、先生方の協力のもとで行事を円滑に進めることが出来た。実務面で出た課題を次年度、改善したい。
② 教務各系の業務内容と資料の点検・整備	A	A	②各業務を明確化し、点検・整理を行った。
③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知	B	C	③次年度の3コース制に向けて検討は行なってきたが、具体的な内規の改定までには至らなかった。
④ 各部署との連携強化による業務効率化	B	A	④特に教務面では業務推進部、行事面では生徒会と連携を図ることが出来た。
(2) 有効な指導体系の継続検討			
⑤ カリキュラム改良の検討	B	B	⑤新カリキュラムの導入に向けて改良を図ることが出来た。
⑥ シラバス改良の検討	C	D	⑥シラバスについては、ほぼ手つかずの状態であったため、次年度は改善したい。
(3) 国際理解教育の推進			
⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく	B	B	⑦語学研修や留学生の受け入れなど、行事内容の充実を図った。ただ3学期においては、新型コロナウイルスの影響で、殆どの国際理解教育関係行事が中止になった。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

- ・各行事においては、他部署と連携のもと概ね予定通り進めることが出来た。
- ・次年度に向けては、働き方改革に応じた業務の効率化と就業時間の遵守を事務所・総務と連携していきたい。
- ・次年度より3コース制がスタートするため、教務内規の再検討が急務である。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、3学期の行事や登校日数に大きな影響が出た。今後、様々な変化が予想される社会状況においても、対応できる柔軟性と準備を備えておきたい。

部署名	生徒指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年度の重点目標（4 月末）

生徒相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。		
	1 教職員への啓発・発信	2 スクールカウンセラーと教職員との連携	
生徒会	1 生徒会活動の活性化	2 委員会活動の活性化	
	3 広報活動	4 生徒会活動の研究	5 ボランティア活動
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 2 道徳意識、規範意識の向上		
	3 いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み 4 生徒の愛校心向上		

2. 平成 31 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生徒相談			
1. 研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。	B	B	カウンセリングについてはスムーズに対応できた。またカウンセリングの部屋も同じ棟にあるため動きがよく、この状態のまま次年度につなげていきたい。
2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。	B	A	
生徒会			
1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員が中心となって、企画段階より生徒の意見が反映された行事ができた。 ・委員会としての動きが増え、活性化が見られた。 ・太子ニュースは定期発行できた。ふれあい太子 2019・入試説明会に参加。 ・クラブは変化なし。来年度の改革に期待。 ・認証伝達式に向けロータリークラブと会議を重ねる。
2. 委員会活動の活性化	A	B	
3. 広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加）	A	A	
4. クラブ生を主体とした学校の活性化	C	C	
5. 校外ボランティア活動への参加（インターアクト含む）	A	A	
生活指導			
1. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導への認識は、徐々に浸透しつつある。生徒の規範意識を高めるために、教員がかかわっていく必要がある。 機会毎に必要な応じた説諭を行った。挨拶活動を通じて生徒の様子を観察する。 薬物乱用防止教室・防犯教室も実施した。 生活アンケートからの学年での早期発見により、いじめに近い案件に対応できた。 生徒からの要求には耳を傾け、要求達成を目標に係教員間で検討を続けている。
2. 始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に指導、説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施・生徒自治会との連携	A	B	
3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校、配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	A	C	
4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映 〔その他〕	B	B	
新入生対象企画「保護者から生徒への手紙」を提案、実施	A	A	

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

生徒相談	<p>スクールカウンセラーへの相談が多い「不登校」「発達障がい」については、継続してスクールカウンセラーとともに検討・研究していきたい。</p> <p>その他の内容については、現状のままさらに充実させたい。</p>
生徒会	<p>「クラブ生を中心とした学校の活性化」に取り組む必要がある。クラブ代表者会議などを積極的に実施する等、変革が必要と考える。</p> <p>来年度は認証伝達式に向け、本格的に計画実施に向かう。</p>
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得に則った生活実践のための指導の徹底。 ・学校と生徒が寄り添う形での規範内容の検討。 ・生徒会・各委員会の協力による校内でのボランティア活動の拡大。

部署名	進路指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年度の重点目標（4 月末）

生徒の希望進路実現のため、上善如水の心境で次の各項目に取り組む

- I. 学力向上
- II. 戦略的改革

2. 平成 31 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
I. 学力向上 a. 探究活動推進 b. Classi を活用したメタ認知力育成 c. 家庭学習推進 d. 模試の事前・事後指導、結果分析	B C B B	B C C C	I. a. さらなる改善が必要。 b. 計画的な実施が必要。 c. 担任を通じた指導が必要。 d. 分析および説明が不十分。
II. 戦略的改革 e. 生産性の高い進路指導体制構築 f. 大学入試制度改革の研究 g. アクティブラーニングの研究と啓蒙 h. 読書指導推進	C C C C	C C C D	II. e. 協力体制の構築が不十分。 f. 成果をあげつつある教科もある。 g. 浸透しつつある教科もある。 h. 組織的な取り組みが不十分。

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ① 高校 1 年生に関しては、オンライン学習等も活用して基礎学力の定着と向上に取り組む。さらに、「思考力」「判断力」「表現力」を育むための探究活動を進め、「主体性」を引き出したい。
- ② 高校 2 年生・3 年生に関しては、さらなる「進学実績の向上」に取り組む。教科・学年と連携し、生徒の学力向上に努める。
- ③ 生産性の高い進路指導体制を作る。教科・学年に対してリーダーシップを発揮し、全人教育を通して進学実績を向上させる。

部署名	入試対策部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- （1）高校入試における受験者数安定・増加のための活動
- （2）上宮学園中学校・上宮高等学校との連携
- （3）情報の収集・共有化
- （4）今後に向けての対応策検討

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>（1）高校入試における受験者数安定・増加のための活動</p> <p>私学無償化の改正や公立校の入試制度改革、少子化の影響もあり、高校受験者も減少してきている。公立中学校において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定・増加させるための活動を強化する。</p> <p>①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。</p> <p>②出張授業や学校訪問などの受け入れ態勢を強化する。</p> <p>③公立中学校を通し、イベント告知を重点地域の生徒全員に行う。</p>	A	A	<p>・高校入試における受験生は昨年より少し減少したが専願者数は大幅に増加した。中3人口が減少傾向にあるので、今後も受験スケールを大きくするとともに、専願者を増やすように活動していく。</p> <p>・3コースの入試となり、受験生レベルが上がった。本校の進学実績の向上が功を奏しているように思われる。</p> <p>・高校入試のイベントは昨年並みの参加者数であった。公立中学校への広報活動を強化した成果であると思われる。</p> <p>・上宮学園中の広報活動においては、上宮との連携が不可欠である。できる限り連携をとってきたが、まだまだできることは多いのではないかと引き続き連携を強化し、上宮、上宮太子共同で募集活動を展開していく。</p> <p>・学校全体への情報共有は昨年に比べると増加したが、満足いくものではなかった。発信、共有する仕組みが必要である。</p>
<p>（2）上宮学園中学校・上宮高等学校との連携</p> <p>上宮学園には、上宮学園中学校、上宮高等学校、上宮太子高等学校の3校がある。広報活動において、上宮と上宮太子の入試対策部で情報交換および活動連携をはかり、学園として効果的に広報活動や生徒募集活動を展開していく。</p>	A	A	
<p>（3）情報の収集・共有化</p> <p>受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図りうる環境を整える。</p>	B	B	
<p>（4）今後に向けての対応策検討</p> <p>少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討する。</p>	B	B	

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

- ・少子化が進んでいる。特に本校がターゲットとする地域（大阪南部、奈良県南部）の人口減少が著しい。向こう3年間で大阪府下の受験生人口は、今年に比べて1割以上減少するデータがある。人口が減少しても安定的に受験生を確保できるよう魅力ある学校づくりを行うとともに、効果的な広報活動を強化していかなければならない。現代社会に即した広報ツールのICT化、学校を知ってもらうための魅力的なイベントや受験生や保護者に直接訴えかける告知方法など、具体的かつ効果的な方策を練っていく必要がある。よって今年度の取り組みを継承しつつ、発展させていかなければならない。
- ・3コースにしての案内はよかった。受験生レベルが上がったことが、入試結果からも読み取れる。今後、入学者への指導をしっかりと行い、3年後に満足のいく結果を出していかなければならない。
- ・部署間の連携を強化し学校全体で様々な知恵を出し合わなければならない。教務、進路、生活指導など、あらゆる方面から魅力ある上宮太子をつくっていけるよう、入試対策部が得られる様々な情報を学内に提供する。会議のみならず、学内にいるICTツール（classi）を使って共有を図りたい。
- ・上宮学園中学校、上宮高等学校との様々な部分で連携を強化したい。生徒募集における関わり合いだけでなく、部署間、教科間の垣根を超えた連携を今後も進めていき、上宮学園としての発展を目指していかなければならない。

部署名	国 語 科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和元年度の重点目標（4月末）

1. 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上
2. 各学年の学習指導計画にアクティブラーニングを導入する研究（特に高1/高2学年の教育方法の改革）
3. 受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
4. 教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

2. 令和元年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上			<p>1 国語力向上のため、各学年とも積極的な取り組みができたように思う。</p> <p>教科会でも、複数回の勉強会を実施し、それぞれ意識を持って授業改革に取り組むことができたように思う。</p> <p>2 高3においては、本年度特進コースは、センター試験平均（特進）が過去最高を記録するなど、しっかりとした取り組みが奏功した感がある。総合進学コースは、上位層の生徒に指定校推薦が続出したこともあり、かなり実力伸長に苦心したようである。</p> <p>3 高1・高2においては、毎時間の小テストが定着化し、徐々に成績が向上している。ICTの活用、リーディングスキルテストも含め、教科書だけに頼らない形態での授業を展開できている。</p> <p>中3においては、アクティブラーニングを意識した新しい授業を展開し、教科会でもフィードバックして頂いて非常に勉強になった。</p> <p>4 研修会には、今年度も各教員が高い意識で積極的に参加している。参加したものについては教科会でフィードバックしたり、自分たちの授業に取り入れたり前向きに取り組んでいる。来年度も全員が同じ意識を共有し、国語科教員として進化していきたい。</p>
① 生徒の学習定着をはかるための方策研究	B	B	
② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み	B	B	
③ 職員同士での国語力向上についての意見交換	B	B	
2. 各学年での学習指導内容の研究			
① 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認	B	B	
② 特進コース →センター、国公立の大学入試に即応できる実力養成	A	A	
③ 総合進学コース →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善	B	B	
④ 高1/高2学年の新入試制度に向けた授業改革 →Find!アクティブラーナーの本格的な活用、研究、授業への導入	B	B	
3. 受験対応力向上へ向けたアプローチ			
① 各学年における講習の充実	B	B	
② 教材や指導法における受験対応力強化の工夫	B	B	
③ 授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み	B	B	
③ 国公立大学・難関私立大学の出題研究	B	B	
4. 教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック			
① 予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ	B	B	
② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催	A	A	
③ 「論理EJON講座」「記述講座」「新入試制度研究」をはじめ、教科内の教員による勉強会実施	A	A	

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

来年度は、入試改革初年度にあたる大切な年である。国語科としても、共通テストへの対応はもちろんのこと、ロイロノートを使用しての双方向授業など、常に状況に対応し、変化する意識を持ちたいと考えている。

そのためにも、今年度以上に研修会への参加、Find アクティブラーナーでの研鑽や、教科会を通じたフィードバックの機会をどんどん増やしていきたいと考えている。

今までの一方的な「覚えさせる授業」から、「表現する授業」への転換の意識は、まず教員が持たないとならない。新しい時代を担う生徒にとって必要な力をつけていけるように、高い意識とスピード感を持った授業改革を模索していきたい。

部署名	社会科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- (1) 授業の厳正化と社会科としての強化
(2) 教科会の活性化
(3) 入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。	A	A	(1) 概ね達成できたと考えているが、研修会などはもっと積極的に参加できるようにしたい。
②社会科の授業が好きになる工夫をする。	A	A	
③中 3 生においては、高校入試で 3 ヶ年の成績を上回る。	C	C	
④高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす。	B	B	
⑤授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。	A	A	
⑥社会科に関する研修会などへの積極的な参加。	B	B	
⑦高校 3 年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。	B	B	
(2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。	C	C	(2) 次年度から始まる共通テストなども意識して、今後は取り組んでいかないとけない。
②授業見学会実施	C	C	
③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。	C	B	
(3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。	A	A	(3) 少しずつではあるが、入試問題も改良できていると感じている。
②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。	B	B	

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ・ 来年度から始まる共通テストについては、研修会などにも積極的に参加し、研究していかなければならないと考えている。
- ・ 今年度の反省を踏まえ、世界史・日本史・地理・公民の各分野にチーフを置き、各学期ごとの進捗状況などの確認をしなければならないと考えている。

部署名	数 学 科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和元年度の重点目標（4月末）

1. 授業の厳正化
2. 数学力の向上
3. 教科会の活性化
4. 研修への参加

2. 令和元年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ・個々のより深い教材研究と教材の共有 ・研究授業の実施 ・各コースの特性を見据えた指導計画と実践	B C B	B C B	各自が日々深い教材研究を行い、教材の共有を行うことは出来ているが研究授業を数学科で統一して行うことは出来なかった。積極的に研究授業を行っていくことが必要である。
2. 数学力の向上 ・家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ・各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ・能力に応じた補習、講習の実施 ・大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ・特進コースの国公立大合格率向上（最後まで目標を持って諦めさせない） ・総合進学コースの一般入試合格率向上（指定校・AO入試に頼らず、一般入試まで頑張らせる）	B B C B B	B B C B B	家庭学習は学年によっては積極的に課し、生徒の成績の向上にもつながっている。数学科として、まとまった一つの方針を作ること出来ていない。高3生には積極的に課題を課し、特進コースの国公立大学の合格率向上に大きく貢献することができた。しかしながら、総合進学コース理系も最後まで粘り強く入試に対応した。
3. 教科会の活性化 ・連絡の徹底と教科内の共通認識 ・教科における情報交換と研修	B B	B C	教科会は多く行い、連絡の徹底は出来ている。
4. 研修への参加 ・アクティブラーニングやICTについての研修を受け、学んだことを教科会で検討し、導入していく。	B	D	研修への参加は数学科の各教員が積極的に参加希望を出し多くの研修会に参加している。今後は、その情報を共有し、教科として統一した方針を示していくことが必要と感じている。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

- ・教科として研究授業の積極的な実施
月に一度研究授業を行えるようにしたい。
- ・ICT、アクティブラーニングについての校内の研修、情報共有、模擬授業・研究授業の積極的な実施。
関数のグラフなど、ICTでしかできない方法を数学で共有する。
- ・各学年における、課題作成方法、小テストの統一、共有。
- ・大手予備校の研修会や、大学の入試説明会などの積極的な参加

部署名	理 科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年度の重点目標 (4 月末)

昨年度までの目標から継続し、以下の2つを重点目標とする。

- ① 指導力を向上し、授業内容を充実する。
- ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。

2. 平成 31 年度の取り組み内容 (4 月末 年度末評価は 3 学期終業式)

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 指導力を向上し、授業内容を充実する			
a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導方法を教科内で共有する。	B	A	・物理、化学において積極的に実験を授業に取り入れている。生物では、取り組む材料が少ない。
b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践	A	A	・各担当者によって、積極的に取り組んでいる。
c 授業見学や FIND アクティブラーナーを使った授業研究を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。	C	C	・各担当で研究は為されている。教科会の意見交流は実践できていない。
d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。	B	B	・高3 担当者を中心に取り組んでいる。
e ICT を用いた授業について研究し、新課程研究を進める。	B	B	・パワーポイントを使った授業や演習などを頻繁に行うようになった。
② 大学入試に対応できる学力をつけさせる			
f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。	B	A	・担当者全員で、積極的に取り組んでいる。
g 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。	A	A	・継続できている。課題も、生徒の実情に合わせて実践している。

3. 今後取り組む内容 (3 学期終業式)

- ・観点別学習状況の判断基準等の検討

部署名	英語科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

予習・復習の習慣をつけさせて、2ポイント UP させる。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①英語力の向上 ・予習や宿題を毎日課し、ノートチェックを週に 2～3 回（最低週に 1 回）。 ・セクション終了毎に小テストで復習の定着。（特進は毎時間小テスト実施） ・授業に音声による活動をできるだけ入れる。 ・辞書を毎回持参させ、4～5回は活用する。 ・英検・GTEC 受験などに向けてオンライン英会話を奨励する。	A	A	ほとんど先生方がノートを毎週集めてくれていました。
	B	A	常に小テストを採点していました。
	C	C	高校 3 年生は受験前であり音声指導が十分できなかった。
	B	B	4～5回は難しいがほぼ活用した。
	B	A	英検の二次面接の指導を全英語科で行った。
②指導法の研究 ・教員間の授業を積極的に見学し、改善に努める。 ・授業改善に関わる書籍購入の推進 ・郊外の研修会に積極的に参加。	C	C	忙しさの中、少しは実施できた。
	B	B	入試制度の変化に関する書籍を時々購入した。
	B	C	3 学期に田尻吾郎先生の研修会をほぼ全員で参加した。

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

普段の担任業務、校務分掌の仕事と予習・復習のノートチェックや単語テストに追われていて、じっくり教材研究をする時間さえ取れないのが現状である。

全受験生に不可欠な英語であることも考え、分掌の負担減も考えてもらいたい。

入試制度改革に伴い、音声と速読を重視した授業形態に替えていく工夫を考えていきたい。

部署名	保健体育科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。
- ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。
- ・ デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	B	B	実際の運動以外の生活態度などに通じる項目であり日々の姿勢が大事だと感じます。
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	C	B	
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	B	
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	C	B	運動自体が全体的に能力が低いと感じる、できる競技とできない競技がはっきりしている。 保健の授業では生活習慣の中での運動の必要性を説き授業とも連動させている。
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	B	B	
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	B	B	
ICTの導入 デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践	C	B	保健の授業での活用。板書の時間が短縮され、講義の内容が今までよりも濃くなっている。 1 学期終了時に合わせて実施している。
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED 使用方法	B	B	

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

来年度は男女別の競技種目の見直し。
 適確な生徒の評価ができるように更に熟慮する。

部署名	芸術科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

1. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
2. 評価、評定の方法について協議する。
3. 行事への協力、取り組み。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。	A	B	・高校の音・美・書においては少人数の実施のため、基本学習がしっかり指導できたと思う。 特に音楽においては、キーボードの導入、さらに美術においてもタブレットの導入により、充実した学習となった。
2. 評価、評定の方法について協議する。 ① 平常点の割合の研究、分析等を行う。	A	B	・継続して協議する。
3. 行事への協力、取り組み。 ① 聖徳書道展への協力。 ② 芸能鑑賞等、教務部との連携。	A A	A B	

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ・芸術で何を学ばせるのか再度考えたい。そして評価について、どうあるべきかを継続して考えていきたい。
- ・芸術の授業をコースごとの特性を考えて 1 単位でも、2 年か 3 年で入れることは可能かどうか、検討したい。

部署名	技術家庭科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上
- ② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成
- ③ 男女共同参画社会を意識した教育推進
- ④ 教材の整備
- ⑤ 実践的授業の実施計画

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①技術・家庭科に対する学習意欲の向上 ・授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 （本物志向の展開：本物を見て触らせる） ・未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科との連携を図った授業を展開する。	B	B	< 技術 > ① 実習時間の確保が難しく大変であったが、すべてやり終えることができた。 ② 専門性を高め、教材研究を家庭科と共に深める必要がある。関連事項などは積極的に取り組み、連動性を持ちたい。
②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。	B	B	< 中学家庭 > ① 例年より実習のレベルアップを図ったが、計画時間内でほぼ終えることができた。 ② 書がカメラを利用したプロジェクターによる授業を取り入れた。学習の浸透がある者とそうでない者はいるが、目新しさに生徒たちは興味を持って取り組んでいた。
③男女共同参画社会を意識した教育推進 ・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。	B	A	< 高校家庭 >
④教材の整備 ・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし展開できる問題解決的な教材を検討する。 ・情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。	B	B	① 総合進学、特進関係なく学習意欲が高く、平常点も含め考查の点数が特進コースより高くなった。生活への興味関心、自立を家庭科からもアプローチしていきたい。 ② 授業が深めていけるよう教科書の内容などを精査していきたい。また、ICT教育を進めていけるよう率先して研究していきたい。
⑤実践的授業の実施計画 ・ものづくりは行程が重要であるため、構想の表示から設計・製図、材料・工具の研究、製作、仕上げを、計画的に実施する。 ・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。	C	B	③ 授業が単調にならないよう、教材を見直していきたい。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

<技家共通> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報教育の推進を図る。 プロジェクターを活用した授業を目指す。 ● 授業研究を深め、教材を精査する。 より深めた学習を追求する。また、簡単なプレゼンテーションの実習も取り入れたい。 ● 実習計画を見直し、実習課題を速やかに実施できるようにすすめる。 綿密な計画を立て、補習が極力ない指導をする。 ● 他教科との連携を図り、資料などの収集をする。 勉強会などの計画を立て実行したい。 <p>科目の中には、興味が薄れる分野があるので、教材の検討を図りたい。また、2020年度はカリキュラムが変更されるため、授業単位に合わせた教材を整備していく必要がある。被服実習を織り込んだ内容にしていきたい。他教科の内容も含めた検討の必要性を感じている。探究や図書教育、現代社会など社会の流れと併せ持った準備をしていきたい。コミュニケーションスキルを求める授業や消費教育を深める授業も展開していきたい。</p>
--

部署名	情報科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ① より良い授業内容にするための検討
- ② PC 教室の活用の促進
- ③ 大学入試制度改革に関する情報収集

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① より良い授業内容にするための検討 ・ 学習効果の高い実習課題の検討 ・ 座学で扱う内容の再構成 ・ 新学習指導要領における教材研究	C B C	C B C	・ 検討はしたが、あまり改善しなかった。 ・ 一定の成果はあった。 ・ 十分とは言えなかった。
② PC 教室の活用の促進 ・ 他教科における PC 教室のより良い運営用法の検討 ・ 放課後等での PC 教室の開放	D D	D D	・ 検討できなかった。 ・ 実施できなかった。
③ 大学入試制度改革に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加	C B	C C	・ 一定の成果はあった。 ・ 一定の成果はあった。

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ① より良い授業内容にするための検討
 - ・ 学習効果の高い実習課題の検討
 - ・ 座学で扱う内容の再構成
- ② 新学習指導要領における教材研究
 - ・ プログラミング教育に関する情報収集
 - ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討
- ③ 大学入試制度改革に関する情報収集
 - ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集
 - ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加

部署名	宗教科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ①校訓、学順の理解
- ②授業内容のさらなる充実
- ③宗教行事の理解と実践

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 校訓、学順の理解 （1） 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。 （2） 礼儀作法について学習、実践をする。	B B	B C	学校生活、クラブ活動において積極的に挨拶をしてくれています。但し、クラブ活動においては、挨拶をしたのに返答が無かったなど、個々に意識の差があるようです。
② 授業内容のさらなる充実 （1） 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。 （2） 生徒の理解に適した授業を展開する。	B B	B B	
③ 宗教行事の理解と実践 （1） 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。 （2） 生徒参加による宗教行事の実践をする。	B C	C C	教科書以外の情報（ICT活用）発信に興味、関心を持ってきています。いかに授業の理解につなげるかが課題です。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

宗教の授業数が学年、曜日で差が激しいです。クラスによって3～4時間の差がありました。

時間差を調整できるように授業内容を工夫、検討していきます。

ICTも活用し、より分かりやすく、工夫する授業を展開していきます。

部署名	中3学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ①けじめある学校生活を身につける。
- ②基本的な生活習慣を身につける。
- ③クラブ活動、生徒会活動、ボランティア活動などへのチャレンジ精神を育む。
- ④高校に向けての基礎学力の定着。
- ⑤将来の仕事を考えさせる進路指導。

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 1に掃除、2に勤行、3に学問の考えをもとに挨拶、掃除を大切にし、授業では集中して話を聞くことを指導する。	B	A	いつも大きな声で挨拶をし、掃除も自発的に行っていた。授業では、集中して取り組む生徒が多くなった。
② スマホやタブレットの普及により夜更かしする生徒が増えているので規則正しい生活を送るように保護者の方と協力する。	B	B	3学期もスマホを使う生徒が多く、深夜になってもゲームやSNSを使う人数は減らなかった。
③ 勉強だけでなく、部活、生徒会活動、ボランティア活動など幅広く興味を持たせ、それらにチャレンジさせる。	B	A	クラスのほとんどの生徒が、クラブ活動に参加していた。また、生徒会にも意欲的に参加して学校行事等を盛り上げてくれた。
④ 授業を中心に予習→授業→復習のサイクルを充実させ基礎学力を身に付けさせる。	B	B	復習をする生徒の数は増えてきたが、予習まで手が回らずにいる生徒が少なからずいた。
⑤ 世の中の仕事について考えさせるとともに、自分がなりたい職業、興味ある仕事に意識を向けさせる指導を心がける。	B	C	大学見学などで大学に意識を持たせることを心がけたが、職業までは行き着かなかった。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

4月からの高校生活に向けて、自分の進路をしっかりと考え、なにがしたいのか、なぜそれがしたいのかを深く探り自分を見つめ直すことが必要である。春休みを利用して自分としっかりと向き合い将来を考える機会を持ってほしい。

高校の授業は中学と比べると、質・量共にはるかに深く難しいものになるので、授業内容をしっかりと理解するためには予習→授業→復習のサイクルを意識させ、定着させる必要がある。

そのためには、学習の土台である中学学習内容の定着を目指した春休みの課題を丁寧に取り組むように指示した。

部署名	高 1 学 年	担当者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和元年度の重点目標（4月末）

<ul style="list-style-type: none"> ①校則の遵守。 ②基本的な生活習慣の確立と家庭学習を定着。 ③将来の目標設定 ④教員が積極的に生徒への指導を行い、教員・学年担当者の意思疎通を図る。

2. 令和元年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①「ルールを守る」意味を伝え本校生徒としてふさわしい人材を育成する。 ・服装、頭髪等の指導を徹底する。 ・授業開始に立腰と黙想をきっちりすることで心を落ち着かせ、授業に対して真剣に取り組む姿勢を育む。	A B	B B	生徒には厳しく指導するのではなく、何度も注意する形でルールを守るよう指導は出来ている。授業にも概ね真面目に取り組める生徒が増えた。
②生徒との二者面談をし、日々生徒の様子を把握して常に保護者と連絡を密にする。 ・基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・自学習の習慣を身につけさせ、課題等を課し、家庭でも復習・予習を自主的にできるようにする。 ・LITERAS3 級取得に向けて学習し、正しい言葉を使えるようにする。 ・Classi を利用し定期考査の目標と振り返りをさせ、定期考査のみならず、様々な面で Classi を活用する。 ・総合進学コースは早朝テストに英作、読解力養成を組み込み、学習習慣を定着させ、土台を作る。	B C B B	C C B B	二者面談も各学期に1回は行き、保護者ともこまめに連絡を取れている。基本的な学習習慣は定着出来ていないのが現状である。 LITERAS を利用することで、生徒全員が正しく言葉を使う意識は芽生えている。しかし検定全員合格までには至っていない。 読解力養成の早朝テストを1年間継続して行うことで、国語力は上がったと思われる。
③進路行事を利用し、将来の目標を考える機会を多く与える。 ・探求の活動を利用し、将来の目標を考えさせる。 ・進路 HR を利用し、適性を考える。	B B	B B	探究活動は3学期に入り生徒達で積極的に発表できるようになった。
④担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全員が同じ方向性で指導にあたり、生徒の夢・希望を応援する。 ・学年テーマを「本気を出す」とし、教員の様々な面での積極的な指導を促す。 ・担任会の実施し、全員で情報を把握する。 ・定期的な学年担当者会議の実施	A A B	A A B	担当教員全員が積極的に生徒に関わり、教員と生徒の信頼関係が築き上がりつつあるが、学年担当者会議を積極的に開けていない。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間ルールを守る意味を伝え続け、2年にはそのルールの意味を考えられるように指導していきたい。物事に対して考え、正しく判断が出来る生徒を育成することが課題である。 ・ 総合進学コースはなかなか学習習慣が定着していない。定期考査の前に学習するだけが現状である。今後自ら考え自分で学習習慣をつけていくことが重要である。 ・ 学年担当者会議を積極的に開催することが課題である。

部署名	高 2 学 年	担当者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①生徒・保護者・教員との密接な連携による基本的生活習慣の確立
- ②当事者意識を持たせ、学力の向上と家庭学習の定着を図る。
- ③自主性・協調性・責任感を育てる行事の取り組み。
- ④担任団・学年担当者・各分掌との意思の疎通。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①・学期に 1 回は必ず生徒との二者面談を実施し、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする。・基本的生活習慣を身につけさせる。 （立腰、挨拶、服装、頭髪、言葉遣いなど） ②・授業に対して真剣に取り組む姿勢を作るため、授業開始に立腰を行うことで心を落ち着かせる。 ・目標大学を明確にして、自学習の習慣を身につけさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自分でできるようにする。 ・授業と補講習を充実させ、特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を一般入試で合格するだけの実力をつけさせる。 ③・修学旅行の充実 ・球技大会・校外学習などでは、自主性・協調性を育てるような行事を企画する。 ・上宮祭においては、各クラスの催し物に積極的に参加するよう促し一人ひとりに責任を持たせる。 ・探究学習を利用して、プレゼンテーション能力を身につけさせる。 ④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。	A	A	①学期に 1 回は必ず二者面談をおこなうことで生徒の様子を把握し、常に目標をもたせることができた。また、保護者とも常に連絡を密にした。
	B	B	
	B	B	②1年の頃とは違い、全体的に落ち着いて授業に取り組んでいた。ただまだまだ家庭学習に対する意識が弱く、自分のための受験勉強までは手が回っていなかった。
	B	C	
	C	C	
	A	A	③修学旅行では、急遽変更とはなったが心から楽しんで一生の思い出に残る旅行になった。
	A	C	
	B	B	④探究学習は、高1でもやっていたので、チームで協力して意見を出し合ったり、プレゼン資料を作成することができた。
	C	C	
	C	C	⑤情報を共有するために、生徒の希望職種や志望大学などを知ってもらい日々の授業に反映してもらう努力を心がけた。

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

自分のことをしっかりと見つめ、良く考えて第一志望校宣言も書けるようになってきた。将来の職業や夢、目標については、かなりの生徒が明確になってきたので、次はどう取り組むか具体的に計画を立てさせて、自分の行きたい進路を確保させることが大事である。

やらされている勉強から、自分のための勉強に切り替え、自ら講習を受けたり、家庭学習では自分が買った問題集で 1・2 年の総復習をやりだす生徒も増えてきたので、受験生という自覚を持ち始めた今が受験対策にのせるチャンスであると思われる。二者面談等を通して個々の生徒に具体的なアドバイスをしながら、自分の可能性を信じさせ、前向き・積極的に受験勉強をスタートさせることが大事である。

新傾向の入試対策に於いては、ただ漠然と生きるのではなく、日頃の生活から常に何故そうなるのかと疑問を持たせ、考える力を身につけさせることが必要であり、読解力についても、くら読でしっかり読み取ることと、自分の意見をまとめて書く力をつけることが大事である。

学年団全員が、生徒の希望を把握し、全員で個々の生徒をきっちり見守りながら正しい進路に導くために今何が必要なのかを考え、労を惜しまず努力することが大切である。

部署名	高3学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- (1)校訓「正思明行」・学順の実践
- (2)生徒・保護者・教員の意味疎通
- (3)特進コースは国公立大、総合進学コースは関関同立・産近甲龍をはじめとした指定校推薦に頼らない進学指導
- (4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意味疎通

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	A	A	(1)メリハリのある指導ができ、卒業式も良いものとなった。
②参列者全員が感動の思い出に残る卒業式の実施	A	A	
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	A	(2)概ね達成できたと感じている。
②効果的なLHRや学年集会の実施	A	A	
(3)①『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり	A	A	(3)総合進学コースにおいては、時代の流れに対応した指導が出来たと感じている。当初は、高2までは指定校推薦に頼らないことを意識したが、高3では他校同様柔軟に対応できた。特進コースにおいては、最後まで国公立大学をめざす指導ができた。
②競争することを意識した学習への取り組み	A	A	
③早朝テストで英語中心に実施することによる大学入試を意識した毎日の家庭学習の習慣の確立	A	A	
④定期考査前の補習の実施	A	A	
※総合進学コースの目標			
①良き生活習慣の確立	A	A	
②英語・数学・国語で全国偏差値50以上を目指す	A	A	
③指定校推薦に頼らない大学進学	A	A	
※特進コースの目標			
①良き生活習慣の確立	A	A	
②英語・数学・国語で全国偏差値60以上を目指す	A	A	
③国公立大合格に向けた指導	A	A	
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施	B	B	(4)時間的な制約もあり、中々厳しい状況にあった。
②日常の会話による生徒の情報交換	A	A	

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

- ・総合進学コースにおいて、現場に対して十分な説明・理解なく、更に英語科の負担を考えた時に、準2級合格者以上しか指定校推薦の対象としないことに疑問を感じる。
- ・指定校推薦の選考方法に関して、実情に即していないと感じている。

部署名	人権教育	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ① 学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成
- ② 育てる人権教育の実践
- ③ いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する	B	B	令和元年度より、携帯電話の所持が許可され生徒はマナー、モラルを持って行動する事になりました。残念ながら授業中に操作する、悪口をラインなどに書き込むなどの事例も生じました。
②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する	B	C	正しい使用と、人としての礼儀について指導していきます。
③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する いじめをテーマにした人権教育LHRの実践	B	B	アンケート形式の調査に加えて、人権啓発学習として作品鑑賞を実施しました。生徒の興味、反応も良く担任の先生方の協力に感謝します。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

年間を通じて限られた回数の人権LHRでした。人権LHRの実施日に5部会の例会が重なることが多々あり、次年度は調整をして実践に臨みたいです。従来の部落問題、在日外国人問題もさることながら、現在の状況を見据えた人権教育を推進していきます。

部署名	保健管理	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
4. 学校保健組織活動の円滑な推進

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ① 発達支援や配慮を必要とする生徒の学校保健情報の共通理解と具体的支援方法のあり方を示す。 ② 救急処置の迅速な対応、けがの予防と指導（数値化） ③ 定期、臨時の健康診断の円滑な実施と事後処置の充実 ④ 学校感染症の予防と発生時の迅速な対応（風疹、麻疹、インフルエンザ予防接種勧奨）	A	B	・保健室の機能を生かした対応と支援を行うことができたが、保護者、担任、学年団との情報共有にとどまらず組織としての共有が課題である。 ・救急処置は迅速な対応ができたが、スポーツ振興センターへの請求件数が年々増え（昨年度よりも 13 件、一昨年よりも 35 件）実地調査もあり、安全対策とその予防教育に早急に取り組まなければならない。 ・麻疹・風疹の罹患歴・予防接種歴調査の実施や新型コロナウイルス感染症など感染動向を見極めて、感染症予防対策を迅速に講じた。 ・心身の健康課題を把握して、がんの予防啓発、熱中症予防、生命の教育等の様々な機会を通して保健指導に努めた。また、Health Care room ホームページに瞬時に情報発信を発信することができたが、周知されていないことが課題である。 ・健康相談活動は SC 等関係職員と情報共有を図り連携が深められた。不登校支援は成果に結びつかないケースもあった。 ・学校医や産業医、保健所等との専門的機関との組織的連携を図り、活発に推進できた。 ・生徒保健委員会を通して、アンケート調査を行い、生徒が主体的に課題を見出し、がんの予防教育や管理栄養士からの食育 Q&A の保健指導など、学期ごとのテーマに応じた取り組み、実践活動を活発に行った
2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 ① 心身の健康課題を見出し、発達段階に応じた個別・集団的保健指導の実践、生活習慣と学習との関連を研究 ② 行事や時節に合わせた保健指導の充実 ③ 保健室ホームページの充実、学校医等関係機関との連携	A	A	
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 ① 生徒、保護者が相談しやすい環境づくりとその問題の背景・要因を的確に把握し、全教職員と情報交換を図る ② SC と生徒相談、関係職員との連携、共通理解を図る ③ 不登校、いじめ事象等の迅速な把握と減少をめざす。	A	C	
4. 学校保健組織活動の円滑な推進 ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の組織的運営の確立 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（検診準備及び補助、啓発活動、心身の健康に関する情報発信）	A	A	

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
 今後も学校保健情報を瞬時に把握して、情報発信とともに、各分掌、組織で情報共有できるようにコミュニケーションを図り、積極的にはたらきかけていく。また、特に安全対策として、スポーツ振興センター災害件数の減少を目指してけがの予防教育や心身の健康管理に努め、組織的推進を図っていききたい。
2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践
 本校の生徒が抱える心身の健康課題を分析して、生徒一人ひとりが自身の健康課題としてとらえ、将来に向けた自立的健康教育につなげられるような興味・関心が引き出せる企画内容を検討していく必要がある。
 引き続き、保健室ホームページ「Health Care Room」においても ICT を活用して情報の発信、充実をめざす。その周知を促し、もっと多くの保護者や生徒に閲覧・利用してもらえるように推進に力を入れたい。
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
 SC はもとより、様々なアンケート結果や生徒の言動にも注意を払い、学年会等に参入し、情報の共有化、組織的連携を強化して、不登校や集団生活が苦手な生徒をゼロに近づけ、健康に学校生活が送れるように支援したい。
4. 学校保健組織活動の円滑な推進
 学校医等を含む保健委員会の体制を整備し、専門的機関からの指導・助言へのはたらきかけを充実させる。生徒保健委員会は生徒の自主的・主体的な問題提起と企画、積極的な活動を生徒会や各委員会と協力した運営を目指す。

部署名	図書教育	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①図書室の運営管理の充実
- ②図書の充実
- ③読書活動の推進
- ④利用生徒数の向上

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実 (1) 開館時間の安定 (2) 館内内の整備	B B	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが少ないため、会議などで開館できない機会が多かった。 ・書庫をおおよそ整理できた。
②図書の充実 (1) 購入図書の選定および購入 (2) 希望図書への配慮 (3) 蔵書の整理	C D A	B D B	<ul style="list-style-type: none"> ・選定に時間がかかり、本の鮮度が落ちたところがある。 ・不明図書や除籍した本の処分ができた。
③読書活動の推進 (1) 読書の啓発 (2) 図書館だよりの定期的な発行	D A	D A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をつくることができず、計画ができなかった。 ・毎月発行でき、HP にもアップできた。
④利用生徒数の向上 (1) 図書室利用の推進 (2) 委員会の活動の推進	C C	C C	<ul style="list-style-type: none"> ・自習室としての活用が多く、考査前や入試時期は多かった。 ・委員の活動によって、本の整理が進んだ。

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

問題点や改善点が出てきているので、学校図書館として早急に取り組む必要がある。ISBN の登録・NDC 分類の振り直しなど、数年がかりで行うものもあるが、徐々に進めていきたい。

来年度は、新しい蔵書システムを導入することもあり、今年度と並行して行う作業が増えることが予想される。登録には蔵書一冊ずつ行う必要があるので、上宮学園の司書の方にアドバイスを聞きながら、進めていく予定をしている。

さらに、今までできていない点をもう一度見直し、委員会を活用して生徒とともに整理を進めていきたい。また、教員の啓発を勧め、読書推進の発信元を広げていきたい。

自習室としての役割ではなく、授業（探究などの調べる授業）での活用を目指し、情報センターとして運営できるよう、数年の計画をたたって準備していきたい。また、積極的な企画や提案をしたり、教職員や生徒に還元できるような書籍をそろえていきたい。

部署名	広 報	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ① ブログの更新回数アップを目指す。
- ② ホームページの更なる改良。（利便性の向上・バナー等の精査）
- ③ 道路沿いの、横断幕の利用方法についての検討。
- ④ SNS の活用の検討。

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① ブログの更新回数アップを目指す。 広報の係でブログをアップする曜日の担当を決めて更新回数の増やすことを目指す。	B	B	担当を決めてスタートしたが、当初は順調であったが、時間と共にアップする回数がダウンしてしまった。
② ホームページの更なる改良。（利便性の向上・バナー等の精査） 昨年度のアンケートを検討し、向上を目指す。	B	B	入試対策部と連携を取りながら、進めることができた。
③ 道路沿いの、横断幕の利用方法についての検討。 見やすさと、インパクトのあるものを作成	C	C	
④ SNS の活用の検討。 時代の合わせた広報活動の研究	B	B	出来る限りの工夫を加えてみたが、まだまだ改良の余地があり、今後の課題とした。 さまざまな情報を集めながら研究をし、積極的に検討を進めた。

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

新型コロナウイルス感染症に伴い、新たな生活様式の必要性に迫られている。今後は、それらの状況に合わせた広報活動が必要であると思われる。

新たな広報活動の構築を進めていきたい。

部署名	業務推進室	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ① 成績処理の効率化
- ② 個人情報の管理の徹底
- ③ 環境の充実
- ④ 業務軽減への方策

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 共有文書等のデータによる活用 ・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用	B	B	・ 成果はあった。今後も推進する。
② 個人情報の管理の徹底 ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底	C	C	・ 個別対応にとどまった。次年度はClassiを積極的に活用したい。 ・ 一定の成果はあった。
	B	C	
③ 環境の充実 ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底	C	C	・ 一定の成果はあった。 ・ 徹底できた。
	B	B	
④ 業務軽減への方策 ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂	C	C	・ 十分とは言えなかった。次年度はClassiを積極的に活用したい。 ・ 十分とは言えなかった。 ・ あまり進まなかった。
	C	C	
	C	C	

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

- ① 共有文書等のデータによる活用
・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用
- ② 個人情報の管理の徹底
・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起
・ 個人データの管理の徹底
- ③ 環境の充実
・ ファイルサーバ内のフォルダの整理
・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底
- ④ 業務軽減への方策
・ 分掌内での情報の共有化の徹底
・ 効率的な業務の分担の実現
・ 作業マニュアルの改訂

部署名	学校評価	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 31 年（令和元年）度の重点目標（4 月末）

- ①学校評価に関する企画・立案・実施
- ②学校評価の報告書の作成・提出
- ③授業アンケートに関する企画・立案・実施
- ④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施

2. 平成 31 年（令和元年）度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①平成 31 年（令和元年）度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成	A A A	A A A	・確認することができた ・確認、点検することができた ・点検・資料作成することができた
②平成 30 年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成	A	A	・資料を揃え公開することができ
③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討	A	B	・実施することができた 保護者・生徒・教員アンケートも実施できた ただ、活用においては検討余地がある
④学校関係者評価に対する資料作成	A	A	・資料作成し、関係者評価を実施した

3. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

今年度分においては予定通りの内容を進めることができた。

今年度は、例年の内容にプラスして、3 年に一度の保護者アンケート、生徒アンケート、教員アンケートを実施したが、その結果の活用についてはまだまだ検討の余地がある。

今後は出てきた結果の有効活用の方法を更に検討する必要がある。

部署名	事務室	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成31年（令和元年）度の重点目標（4月末）

- ①適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上
- ②企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)
- ③校内・教育環境のさらなる整備

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上 ・個々の業務を他の職員とコミュニケーションをとりながら効率的かつ確実に進めていき、組織的な業務の質の向上を目指す。 ・マイナンバー等の個人情報に関わる資料の慎重な取り扱い、また、その他の重要資料に関しては数人で確認し合う必要がある。 ・普通の教職員とのコミュニケーションにより子どもたちや保護者の意見を聞きながら・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。 ・稟議一覧を教職員の誰でも閲覧できるように公開する。 ・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。 ・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。	A	A	・コミュニケーションをとり円滑に業務を進めていくことができた。 ・個人情報の慎重な取り扱い、確認等によりミス無くすることができた。 ・特に配慮が必要な家庭への対応等、教職員との連携により確実な対応ができた。
・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。	A	A	・特に配慮が必要な家庭への対応等、教職員との連携により確実な対応ができた。
・普段の教職員とのコミュニケーションにより子どもたちや保護者の意見を聞きながら・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。	A	A	・特に配慮が必要な家庭への対応等、教職員との連携により確実な対応ができた。
・稟議一覧を教職員の誰でも閲覧できるように公開する。	B	C	・電子稟議について今年度は実施できなかったが上宮学園本部との協議をふまえて次年度4月から実施できることになった。
・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。	B	B	・上宮学園本部の事務室と密に連絡を取り合い、適切に事務処理を行うことができた。
・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。	B	B	・さらなる業務の適正化の為、見直していく必要がある。
② 企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)（継続） ・創意工夫を生かした特色ある学校づくりを、進めていき、HP・学校案内・説明会をうまく活用しながら情報発信をする。 ・積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく。また、教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有する。	B	B	・HPや学校案内、説明会等でさらに本校の特色を発信していきたい。
・積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく。また、教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有する。	B	B	・会議の参加等により、教育活動・方針の把握、またHPの活用、入試業務の効率化等を改善することができた。今後はさらに質の高いものにできるように努めたい。
③ 校内・教育環境のさらなる整備（継続）	B	B	・中庭のステージと渡り廊下のペンキの塗り替えを行った。次年度は体育館のエアコン設置等さらに教育環境の整備について進めていきたい。

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

昨今、少子化や景気の悪化等様々な影響により生徒獲得が難しくなっている。事務職員も必要な事務処理に従事するだけでなく、積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく必要があると感じる。我々事務職員も本校の弱点を考え、いかに世間のニーズに応えていないかを知り、生徒募集に苦戦する最大の原因を真摯にシビアに考え、その結果を学校改善、生徒募集に繋げていきたい。このため、教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有する必要がある、会議の出席は必要である。しかし、窓口対応等の業務の関係で全員が会議に出席することができないので、日々のコミュニケーションをただの意思疎通だけではなく質の高いものにしていきたい。今後も現状に満足することなく、学校や子どもの為に業務を進めていきたい。

次年度は電子稟議、ネットバンキング等の導入により、事務処理の効率化等を図っていく。さらに教師の事務負担の軽減や事務職員の学校運営への支援・参画の拡大等を積極的に進めていく。

令和元年度授業アンケート 分析

1. 実施時期

中学校・高等学校共 11月15日

2. 対象学年

全学年

3. グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の4段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

質問別肯定的評価グラフ

「授業マナー」……あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

「板書等」……先生の黒板・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？

「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか？

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」は生徒の自己評価になります。

4. 分析

令和元年度は11月に実施した。約6ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科で互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように活用したい。

【高等学校】

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも80%以上になることを目標としている。今年度もほとんどの教科で目標の80%はクリアできた。過去3年のグラフを比較すると、今年度は全体としてはやや高い評価を受けている。特に数学、理科の評価は前年度と比べると5ポイント以上の高い評価になった。今後とも、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。ただ、情報科だけは下降しており、原因を考え今後に向けて対策を立てる必要がある。

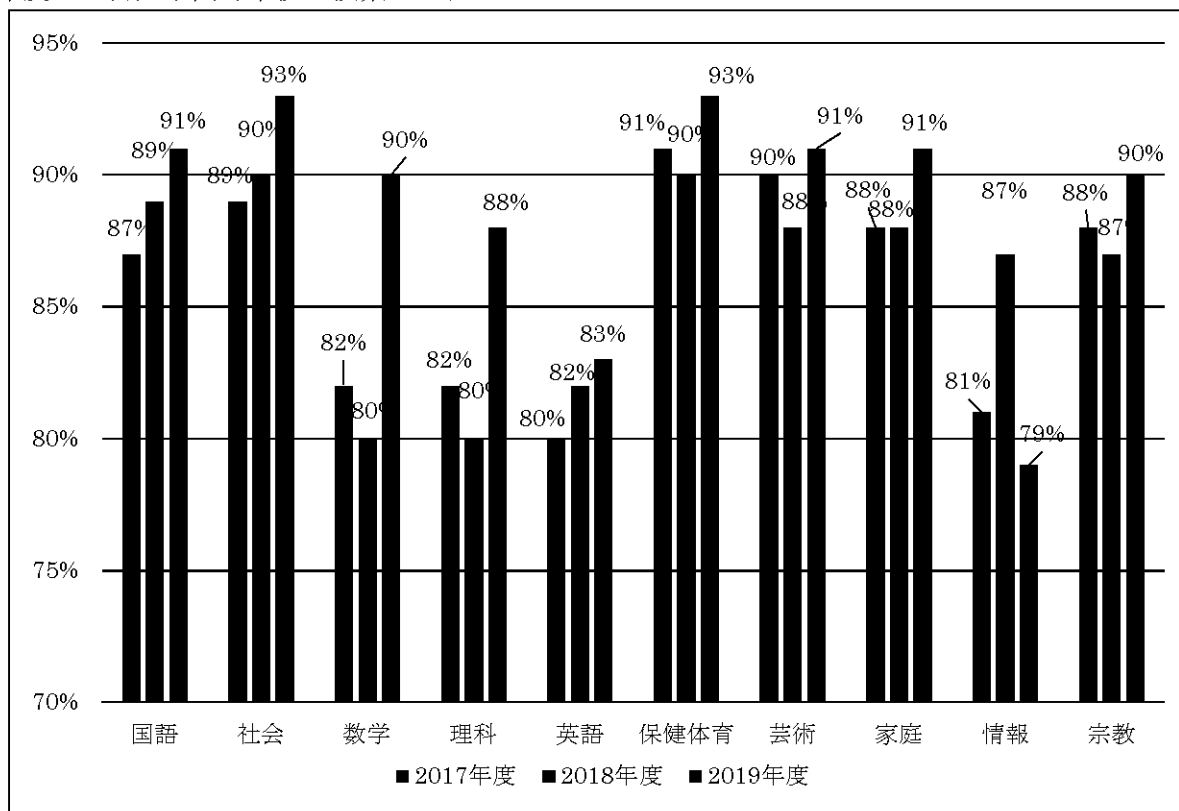
質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度と同様に今年度の重点目標として家庭学習の習慣を掲げた。数値的にはかなり高いとはいえないが、昨年度より5ポイント以上上昇し、直近の3か年では一番高い結果となった。このことから毎年目標としている家庭学習の習慣の向上は、その取り組みがやや功を奏してきていると考えられる。(自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるため40%以上が目安になる。本年は51%)他に、「授業展開」の評価は他の項目に比べると、例年評価の数値が低い。しかし、この項目でも今年度は過去最高の結果を出すことができた(昨年度より5ポイント上昇)。そして、全体として見れば、今年度は直近3年で最高の結果を出すこととなった。今後、各教科ともに、現状が維持できるよう、あるいはより改善できるように、どのようにしていくことが大切かを検討したい。

【中学校】

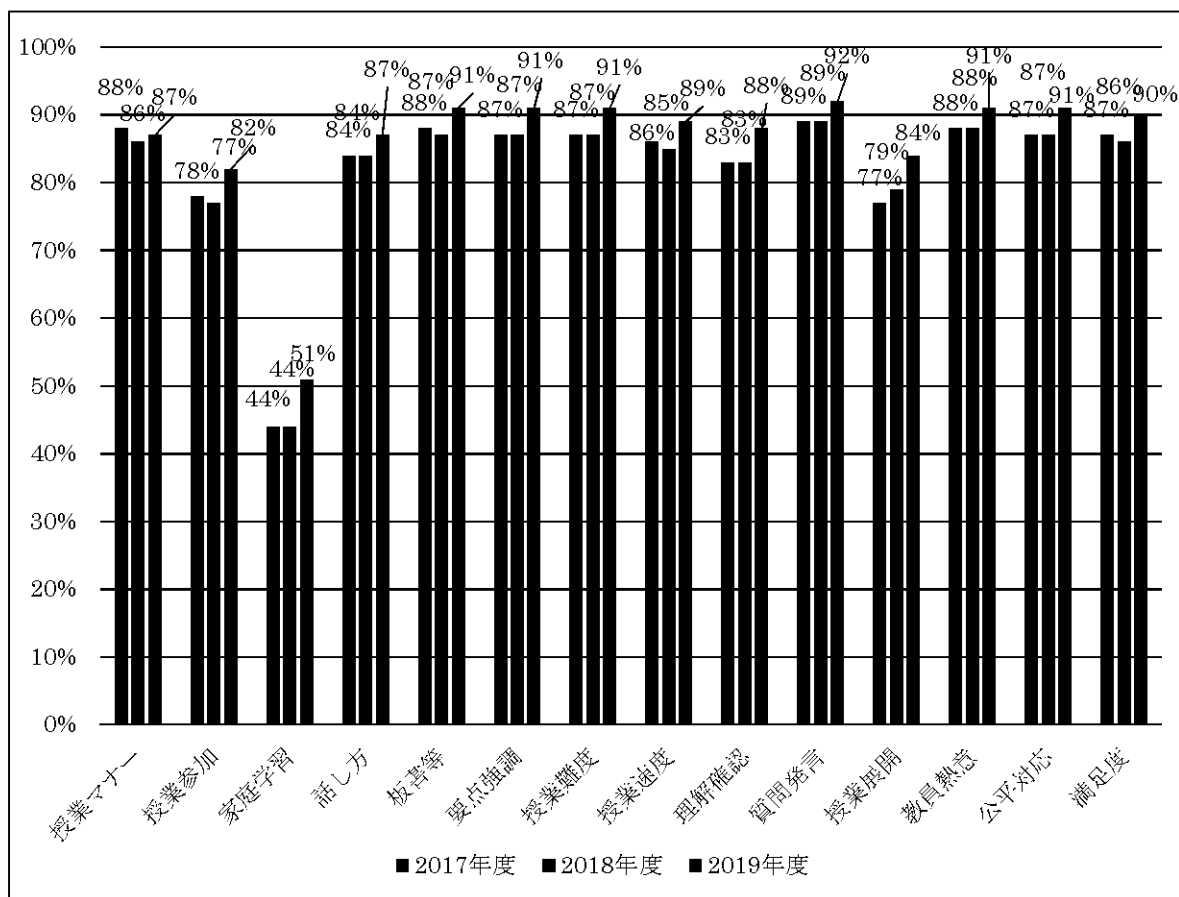
教科別肯定的評価グラフにおいて、今年度は全体的に昨年度より下降する評価はなく、十分に改善できたと言える結果となった。ただ、高等学校に比べると人数が少ないので、数値の変動に大きく左右される面は否定できないため、少し上昇したからといっても高校の数値程の違いは出ていないと考えられる。中学校としては、最後の年度となるが、残りの期間もより高い評価が維持できるように手を緩めることなく取り組んでいきたい。

質問別肯定的評価グラフにおいて、「授業参加」・「家庭学習」の生徒の自己評価は昨年よりも低下している。中学校から学習習慣の定着をもっと図る必要があると考えられるので、いかに低学年から家庭学習の習慣を身につけて、積極的に授業に参加させていくかを追求し、継続的に検討をしていきたい。

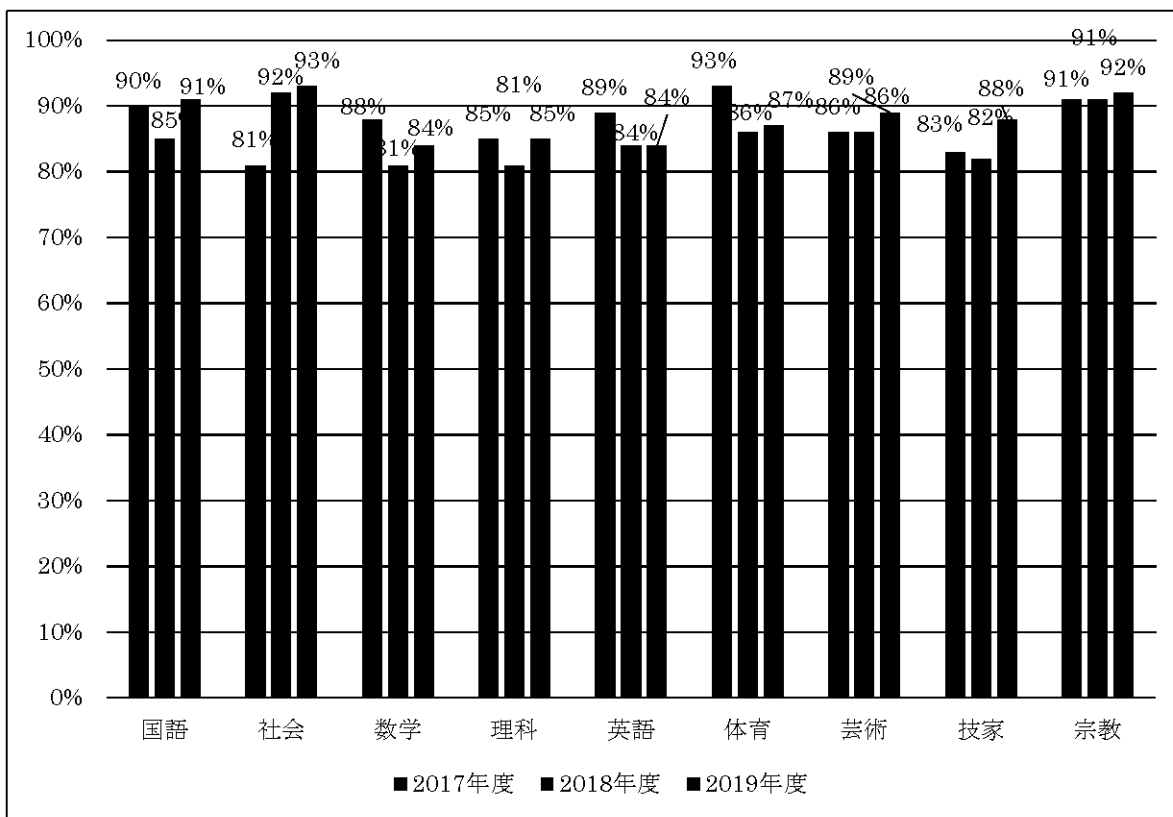
令和元年度 上宮太子高等学校 授業アンケート



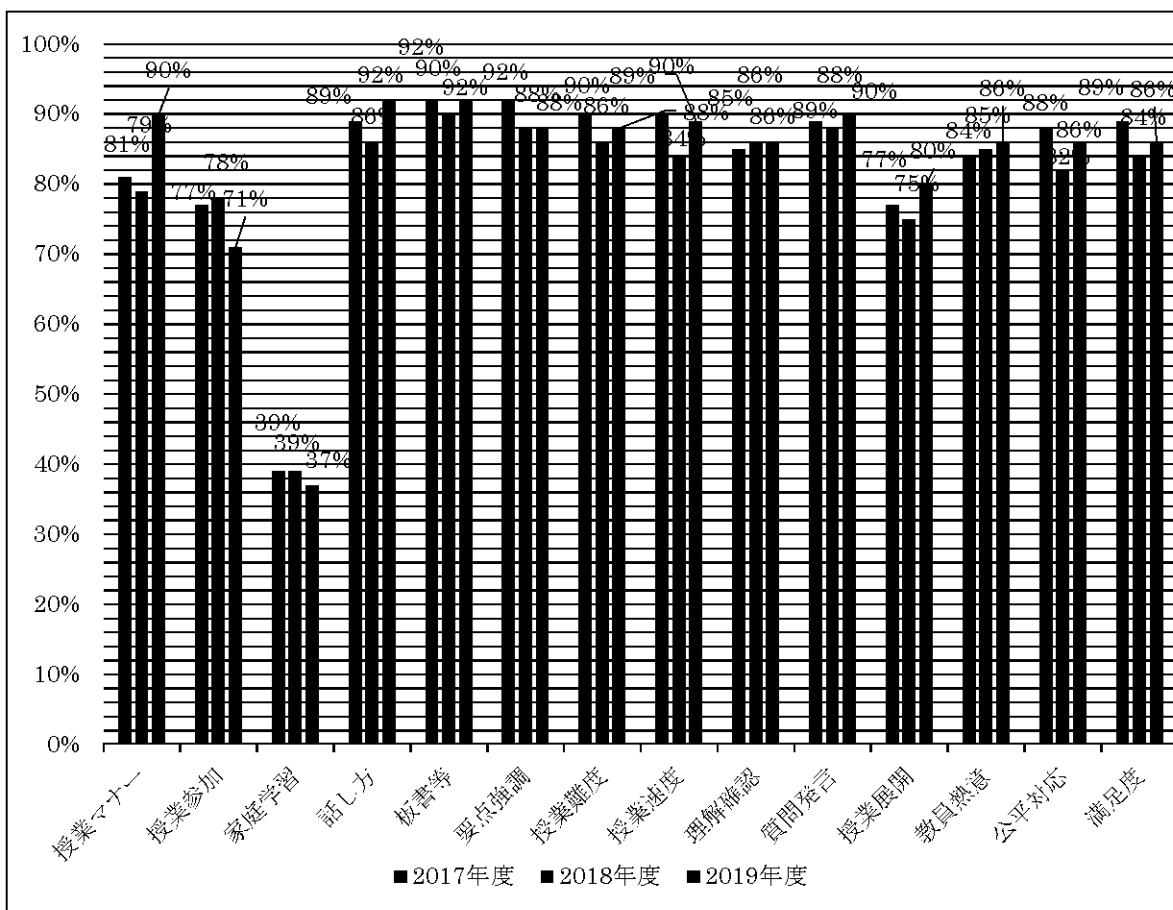
質問別肯定的評価



令和元年度 上宮太子中学校 授業アンケート



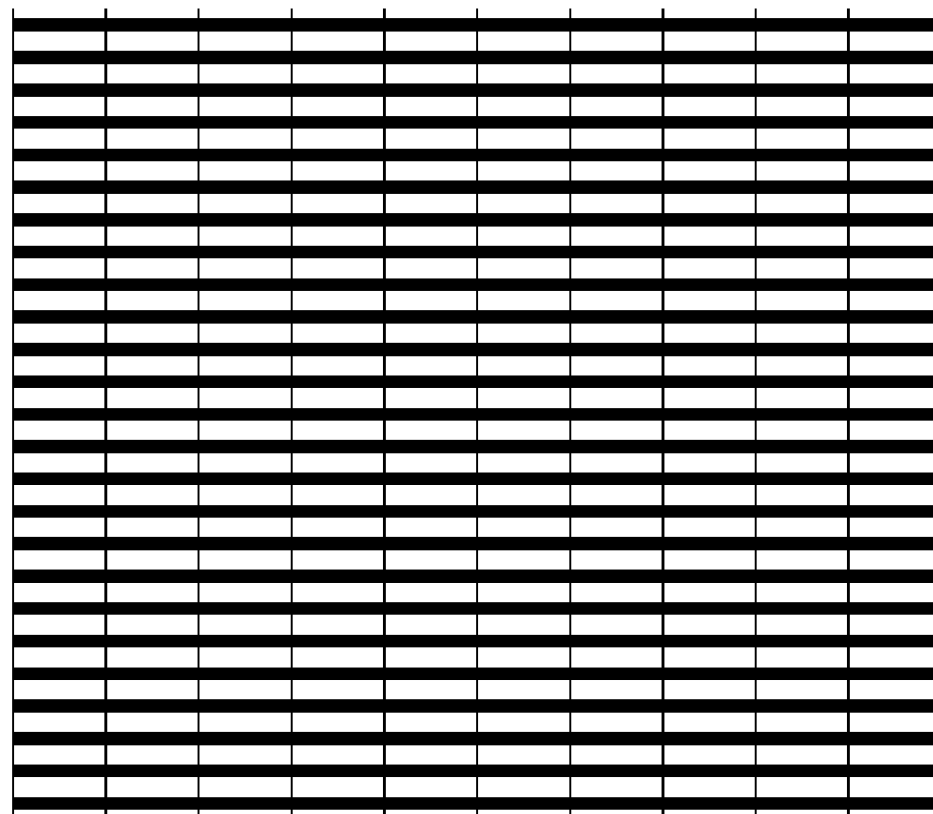
質問別肯定的評価



令和元年度 保護者アンケート 集計結果

番号	設問文
1	「校訓・学順」を柱とする本校の教育理念が教育活動の中で大切にされていると思いますか。
2	仏教の精神に基づいた教育が行われていると思いますか。
3	特進選抜/特進/総合進学コースの特色が教育に活かされていると思いますか。
4	お子様の学校生活が楽しく充実していると思いますか。
5	学習習慣が身に着く授業が行われていると思いますか。
6	授業をわかりやすくするため、教え方を工夫している教員が多いと思いますか。
7	教員は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか。
8	授業の進み方が適切で、授業につまずかないように配慮されていると思いますか。
9	授業や課外学習などの学校の学習で、大学受験に対応できると思いますか。
10	担任が親身になって個別的な相談に対応してくれていると思いますか。
11	基本的な生活習慣が身に付く生活指導が行われていると思いますか。
12	よい友人関係を築けるための指導や努力を教員がしていると思いますか。
13	ホームルームの時間帯に将来の進路や生き方について考える機会があると思いますか。
14	進路および教育活動に関する保護者説明会や懇談が充実していると思いますか。
15	体育大会や上宮祭等の、学校主催の行事が充実していると思いますか。
16	部活動が活発で内容が充実していると思いますか。
17	ホームページの内容は十分であり、タイミングよく適切な情報が提供されていると思いますか。
18	学校からの通信（さくら連絡網）や文書などで学校の様子が家庭によく伝わっていると思いますか。
19	教員が家庭との連絡・連携を大切にしていると思いますか。
20	学校施設が整備され、充実していると思いますか。
21	防犯・防災、安全管理への対策が整っていると思いますか。
22	現在の担任の指導に満足していますか。
23	現在の学年の運営に満足していますか。
24	学校は病気予防・保健衛生の対策をしっかりとしていると思いますか。
25	本校を選んだことに満足していますか。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 満足している ■ 満足していない ■ わからない

B 本校に期待することは何でしょうか。(自由記述)

自由記述欄にご記入いただいた内容をまとめると、以下の項目に関する貴重なご意見をいただきました。

- ①学業面(放課後や長期休暇中の補習・講習に関する事、家庭学習に関する事)
- ②進路指導面(保護者への進路情報提供、生徒自身の進学イメージの育成に関する事)
- ③生徒指導面(校則内容の提案、生徒の学校生活面での要望、制定品に関する事)
- ④教務面(行事予定周知への提案、個人懇談会での提案、高3生の学校行事参加に関する事など)
- ⑤施設面(設備充実面での要望、スクールバス運行面での要望など)
- ⑥その他(クラブ活動の運営に関する事など)

今回いただきました貴重なご意見は、今後の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

令和元年度 保護者アンケート 集計結果について

まず、本校の教育理念や仏教の教えに基づいた教育の実践に対して、満足していただいている方が多いことに感謝いたします。生徒一人ひとりの成長を目指した担任指導をはじめ、保護者説明会や学校行事などについても一定の評価をいただきました。

一方で、授業のスキル向上や生徒の一層の学力向上等については、教員全員が常に日々新しく改善していかなければならない項目でもあり、今後ともに現状での問題点を見つめ、授業アンケートの結果も踏まえ、生徒の思考力・判断力・表現力を錬磨する授業法の研鑽等、教員一同、一丸となって重点的に検討を加えて参ります。また、設備面については、学校のICT化に向けた環境整備として、既に各教室にICT機器を設置し、さらに、グランド照明を改善して学習環境を整えました。また、トイレの改装も順次実施しており、今後とも、より快適な学校生活に繋る整備に努めてまいります。

このアンケート結果を参考にし、私学ならではの教育、また宗門学校としての教育を基盤に置き、本校ををよりすばらしい学校にいていく努力をして参ります。

令和元年度 学校評価に関する報告書

上宮太子中学校・高等学校

1. 令和元年度年間目標

令和元年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「礼節を重んじ、ルールを守り、そして自治能力を身につけた上で、学力を向上させる。そして各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させ、共学教育を更に安定させて、各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと」を掲げた。

2. 各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

1. 教務運営システムの整備・効率化
 - ・行事の着実な実施と改良
 - ・教務各係の業務内容と資料の点検整備
 - ・教務内規の精査、改定、整備
 - ・各部署との連携強化
2. 有効な指導体系の継続検討
 - ・カリキュラム改良の検討
 - ・シラバス改良の検討
3. 国際理解教育の推進

【評価】

- ・重点目標の実施に関しては先生方の協力により進めることができたが、実務面で新たな改良点も見受けられた。
- ・新カリキュラムの導入に向けて改良を図ることができた。
- ・シラバス改良に関してはあまり手を付けることができなかった。次年度では改善したいと考えている。
- ・語学研修や留学生の受け入れを実施することができたが、新型コロナウイルスの影響から3学期はほとんどの国際理解教育関係行事が中止となった。
- ・全体としては、今年度は概ね予定通り進めることができた。次年度の課題としては、働き方改革に応じた業務の更なる効率化を考えたい。
- ・新しい3コース制度が次年度よりスタートするので、教務内規の再検討が急務である。

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、3学期以降の行事に大きく影響が出たため、今後の様々な社会情勢の変化にも対応できる柔軟性と準備を備えておきたい。

②生徒指導関係

【重点目標】

1. 悩みを持つ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする
2. 生徒会活動、委員会活動、広報活動、ボランティア活動の活性化と研究

3. 生徒指導の推進と問題行動の予防強化、生徒の道德意識、規範意識の向上
4. いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み
5. 生徒の愛校心の向上

【評価】

- ・ カウンセリングについてはスムーズに対応できた。この現状のままさらに充実をさせたい。
- ・ 生徒会役員が中心となって、企画段階より生徒の意見が反映された行事ができた。委員会としての動きが増え、活性化が見られた。太子ニュースは定期発行ができた。ふれあい太子 2019・本校入試説明会に参加。
- ・ 教員の指導への認識は、徐々に浸透しつつある。生徒の規範意識を高めるために教員が更にかかわっていく必要がある。挨拶活動を通じて生徒の様子を観察した。
- ・ 生徒アンケートからの早期発見により、いじめに近い案件に対応できた。
- ・ 生徒の要求に耳を傾け、要求達成を目標に担当教員で検討を続けている。

③進路指導関係

【重点目標】

1. 学力の向上

- ・ 探究活動推進
- ・ Classi を活用したメタ認知力の育成
- ・ 家庭学習推進
- ・ 模試の事前・事後指導、結果分析

2. 戦略的改革

- ・ 時間短縮面での効率の高い進路指導体制構築
- ・ 大学入試制度改革の研究
- ・ アクティブラーニングの研究と啓蒙
- ・ 読書指導の推進

【評価】

- ・ 探究活動推進には更なる改善が必要であった。
- ・ Classi を活用した取り組みには更なる計画的な実施が必要であると考えた。
- ・ 家庭学習は、担任を通じた指導が必要であると感じた。
- ・ 模試分析は分析や説明が不十分であった。
- ・ 読書指導は組織的な取り組みが不十分であった。
- ・ 高校1年生に関しては、オンライン学習を活用して基礎学力の定着と向上に取り組みたい。
- ・ 高校2年生、3年生に関しては、更なる「進学実績の向上」に取り組む。各教科・各学年との連携を深め、生徒の学力向上に努める。
- ・ 効率の高い進路指導体制を作る。各教科、各学年に対してリーダーシップを発揮し、全人教育を通して進学実績を向上させる。

④入試対策関係

【重点目標】

1. 高校入試の受験者数の安定化・増加のための活動
2. 上宮学園中学校・上宮高等学校との連携
3. 情報の収集・共有化
4. 今後に向けての対応策の検討

【評価】

- ・高校入試における受験生は昨年より少し減少したが、専願者数は大幅に増加した。中学3年生の人口が減少傾向にあるので、来年度も専願者を増やせるように活動していきたい。
- ・上宮学園中学校の広報活動では、天王寺校との連携が不可欠である。できる限り連携を取ってきたが、まだまだできることは多い。引き続き連携を強化し、上宮、上宮太子共同で募集活動を展開していく。
- ・学校全体への情報の共有化は昨年度よりは増加したが、まだまだ満足のものではなかった。発信、共有する仕組みを考える必要がある。
- ・今後の更なる少子化に向けて、人口が減少しても安定的に受験生を確保できる魅力ある学校づくりを行うとともに、効果的な広報活動を強化していかなければならない。学校を知ってもらう魅力的なイベントや受験生の保護者に直接訴えかける告知方法など、具体的かつ効果的な方策を練っていく必要がある。

⑤教科

【重点目標】

- ・学力、指導技術の向上
- ・教科会の活性化
- ・アクティブラーニングを導入した授業の研究
- ・新学習指導要領、大学入試問題等の研究推進及び対策

【評価】

- ・複数の教科では、教科会で学力向上についての意見交換を行い授業改革に取り組むことができた。
- ・昨年度に比べ、研修会等に参加する教員が増えた。特に次年度からの入試改革に対する関心が高く、積極参加に繋がった。
- ・各教科共、アクティブラーニング等新しい授業でのアプローチ法には関心が高い。ICTを用いての授業法の研究も活発になってきている。
- ・大学の入試問題の分析を各教科で具体的に組織的に実施した。
- ・実技教科においては、その教科の特性を鑑み、体力の向上、技術の向上、協調性、素晴らしい感性の育成等の目標はほぼ達成できていると考えられる。また実技教科においてもICTの導入を模索する動きが活発化している。

⑥学年

【重点目標】

1. 各学年に応じた基本的な生活習慣及び学力定着、家庭学習の確立

2. 担任団・学年担当者間・各分掌・保護者との連携
3. 自立、責任感を持たせる取り組み

【評価】

- ・各学年とも年度当初の目的はある程度達成できた。基本的な生活習慣の確立については、学年を通じて今後も取り組んでいきたい。
- ・学年内での情報共有については、昨年度よりは進展したと思われるが、十分には実施できていないと感じている学年もある。多忙な時間の中で、積極的に時間を作る必要がある。
- ・将来を見据えた大学進学に関しては、各学年とも、昨年度以上に意識を持って取り組んだ。探究の時間を使い自分について考えさせる時間を積極的に設けた。
- ・中学においては、勉強面だけではなく、部活、生徒会活動、ボランティア活動などに関心を持たせた。その結果、自発的に学校行事を盛り上げる生徒も育ってきた。
- ・今後とも各学年の達成目標を意識した指導の確立を目指していきたい。

⑦その他

【重点目標】

1. 携帯電話許可による携帯電話のマナー・モラルの育成を通じた人権教育の実践
2. 保健管理の組織的推進、自立的な健康の保持・増進、健康相談活動の充実
3. 読書活動の推進
4. ホームページ改良、SNS活用、校舎前の横断幕活用による広報活動の改善
5. データ処理システムの効率化、印刷文書の削減、業務軽減への方策
6. 校内整備

【評価】

- ・SNS、インターネットと人権について考える教材を作成し指導に繋げることができた。
- ・今後も更に、保健室から保健情報を発信し、各分掌、組織が情報共有できるように働きかける。
- ・図書教育においては、安定した図書室運営、委員会活動を積極的に活用する読書活動を行うことができた。今後もこの面を充実させていきたい。
- ・広報ではホームページのブログアップ回数を増やすことはできたが、年度の後半ではやや減少した。SNS活用では、様々な情報を集めながら研究することを積極的に進めた。
- ・成績関係書類の情報処理化の充実のための整備ができた。今後はClassiを積極的に活用したい。
- ・中庭ステージ、渡り廊下の鉄部の塗装を実施。次年度は体育館の空調環境の整備を進めたい。

3. 授業アンケート、保護者・生徒・教員アンケート

授業アンケートは2学期に1回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

今年度は3年に1回の保護者・アンケートも実施した。この資料についても別紙に記載する。

令和元年度に関する学校関係者評価報告書

上宮太子中学校・高等学校
学校関係者評価委員会

1. 令和元年度自己評価結果について

令和元年度学校関係者評価は、本年2月頃から蔓延し始めた新型コロナウイルス感染症防止への配慮から、学校評価関係者が一堂に会して評価を行う従来の方法を取らず、担当者がまとめた報告書を各委員に送付、そして意見を回収し取りまとめるという方法で実施した。

今回使用した資料は以下の通りである。

1. 令和元年度 学校評価に関する各部署の総括
2. 令和元年度 学校評価に関する報告書
3. 令和元年度 授業アンケート分析
4. 令和元年度 保護者アンケート 集計結果

まず、令和元年度の年間目標として「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「礼節を重んじ、ルールを守り、自治能力を身に着けた上で、学力を向上させること。そして各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させ、共学教育を更に安定させて、各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと」を掲げ、そのもとで各部署が年間目標を作成し、それに向けて実施できた内容と課題の報告を上記2の報告書に掲載した。そして、その実施した内容に対しての“遂行度”/“達成度”の観点から踏まえた評価基準による分析をもとにした自己評価結果を、上記1の総括の中に詳しく掲載し、各部署からの報告を示した。ここでは、10月の中間評価を経て、年度末に最終的な評価がなされている。結果はあくまでも自己評価であるため、部署によっては若干の評価基準の差異が生じている面も存在する。

上記3の「授業アンケート分析」については、例年11月に全生徒を対象に実施している内容が報告され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。教科によっては、評価について真摯に受け止めなければならない結果も見受けられる。ここで出た結果は、今後、担当者個人や教科会等で検討、活用されるものである。

上記4の「保護者アンケート 集計結果」については、3年に1度の頻度で実施しているものであ

るが、令和元年度はその実施時期に当たっていたため、その集計結果が提示された。

2. 令和元年度 自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに細かく適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間の連携も前年度よりも更に改善できているようだ。ただ課題を進めていくうちに、継続的に改善すべき課題、時間不足が原因で達成できなかった課題、新たに考慮する課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をして、より良い学校にしてもらいたい。また3学期に生じた新型コロナ禍の影響により実施できなかった国際理解に関する行事についても、今後の状況に応じて推進していってもらいたい。

「授業アンケート」に関しては、先生の熱意や生徒の満足度の項目が毎年向上していることは評価できる。今後も、もっと学びたいと思うような授業の評価を高めてもらいたい。教科間で若干の評価の偏りがあるようなので、分析を踏まえて、更なる取り組みに期待したい。以前から、熱意のある先生が非常に多いので、授業アンケートの結果を参考にしながら、この取り組みが維持されることを期待している。

進路指導面では、一人ひとりの生徒の希望進路実現のための学力の向上を、一層推進できる進路指導体制を構築することを重点目標とし、その上で、探究活動や教材の活用法、模試の活用法、ICT教育を積極的に取り入れた家庭学習の在り方に至るまでを、取りまとめていこうとされていることは評価に値する。

ただ、今年度の評価については、十分に満足できる結果には到達していないということなので、今後も引き続きこの整備を進めていってもらいたい。また、教員間の大学入試制度改革やアクティブラーニングに関する教員研修参加を推奨されていることは、好ましいことだと言える。更なる教員間の周知徹底に取り組んでいかれるよう望むところである。そして、進路情報に関しては生徒だけでなく、保護者にも新しい入試改革の情報等を積極的に伝達していってもらいたい。

読書指導の推進にも更に取り組まれない。

生徒指導面では、全教員による一律指導を目指した情報共有の取り組みは評価できる。

配慮を要する生徒への取り組みを強化し、スクールカウンセラーから各学年担当者に至るまでの連携強化が、スムーズにできたということは評価できるものである。また、生徒会役員による生徒会活動を活発に利用され、生徒自らが主体的に行動する意識を学校全体で共有されていることは大変好ましい。今後も、生徒会役員を生徒活動の中心に参加させ、更なる学校活性化が図られるよう、生徒を中心に取り入れた更なる生徒主体の活動の場が、今後共広がっていくことを大いに期待している。

各学年、各教科での指導面でも、前回同様に授業アンケートの結果を考慮され、教科内での情報共有に重点が置かれたようで、教員間の意識の統一を強化されたことは評価に値する。こうしたあり方は、各分野それぞれでのレベルの底上げにつながり、今後に期待できるものとなろう。また、中学では特に自主性の醸成に重点を置き、保護者との連携を強化することで成果が出ていることは好ましいと言える。そして、ベテラン教員と新任教員との情報共有を今後も続けることで、一律の授業効果が期待できる環境を整えられたい。

「保護者アンケート」に関しては、教員、特に担任の指導に満足している保護者が多いという結果は大いに評価できることである。ただ、学校施設面等のハード面ではまだまだ満足度を上げていく余地があると思われる。できるだけ不満点が出てくる前に事前に対処していくことが大切ではないかのご意見をいただいた。

以上の他に、今回の新型コロナウイルス等に見られるように、緊急時における学校の対応面では、本校が比較的にリモート授業の開始が早かったことや、ICTを活用した連絡網の活用等、生徒のを中心に考えた素早い動きに対しては満足できるものであるとの声をいただき、学校現場での職員の取り組みには満足しているとの声をいただいた。また、入試対策面では同窓会がもっと関わって生徒増につながっていく必要性についてもご意見をいただいた。